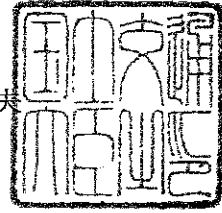


認定書

国住参建第 385 号
令和 4 年 4 月 28 日

大和建材工業株式会社
代表取締役社長 岡本 健太郎 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-2013(1)
2. 認定をした構造方法等の名称
葺材 [ステンレス鋼板、めっき鋼板、銅合金板、チタン板又はアルミニウム合金板製]・硬質木片セメント板・フェノールフォーム保温板表張/軽量鉄骨下地屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

葺材 [ステンレス鋼板、めっき鋼板、銅合金板、チタン板又はアルミニウム合金板製] ・硬質木片セメント板・フェノールフォーム保温板表張／軽量鉄骨下地屋根

2. 仕様の寸法：

仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法・形状

項 目	仕 様
支持部材の間隔	構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法
たるきの間隔	910mm 以下
葺材	仕様：①～⑥の一 ①横葺 働き幅：90～910mm ②瓦棒葺 働き幅：120～910mm ③立平葺 働き幅：100～910mm ④平滑葺 働き幅：225～910mm ⑤金属瓦葺 働き幅：203～1212mm ⑥折板葺 働き幅：250～910mm 山高：9mm 以上

3. 仕様の主構成材料：

仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項目	仕様
たるき	<p>材料：①又は②</p> <p>①一般構造用軽量形鋼 (JIS G 3350)</p> <p>②一般構造用角形鋼管 (JIS G 3466)</p> <p>塗装 (JIS K 5621)：あり又はなし</p> <p>※塗料は鉄鋼用水性特殊変成アクリル樹脂プライマー</p> <p>形状：□形又は角形</p> <p>寸法：①～④の一</p> <p>①□-100×50×20×2.3mm 以上</p> <p>②□-100×50×2.3mm 以上</p> <p>③□-75×75×2.3mm 以上</p> <p>④□-80×70×2.3mm 以上</p>
葺材	<p>仕様：(1)～(5)の一</p> <p>但し、塗装品の塗布量(有機質量)は65g/m²以下</p>
(1) ステンレス鋼板	<p>材料：①～④の一</p> <p>①ステンレス鋼板 (JIS G 4304 又は JIS G 4305)</p> <p>②塗装ステンレス鋼板 (JIS G 3320)</p> <p>③両面ポリエステル樹脂系塗装/亜鉛めっきステンレス鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9673)</p> <p>④塗装/亜鉛合金板/ステンレス鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9425)</p> <p>厚さ：0.35～1.2mm</p> <p>降伏点：205N/mm² 以上</p>
(2) めっき鋼板	<p>材料：①～⑮の一</p> <p>①塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3322)</p> <p>②溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321)</p> <p>③塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312)</p> <p>④溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302)</p> <p>⑤塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3318)</p> <p>⑥溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317)</p> <p>⑦溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314)</p> <p>⑧高耐候性圧延鋼板 (JIS G 3125)</p> <p>⑨両面ポリエステル樹脂系塗料/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料 NM-9583、NM-9584)</p> <p>⑩フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料 NM-9662)</p> <p>⑪両面アクリル樹脂系塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8341、NM-8514)</p> <p>⑫両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-1863)</p> <p>⑬塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697)</p> <p>⑭溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323)</p> <p>⑮フッ化ビニリデン樹脂系塗装/両面アクリル・塩化ビニル樹脂系塗装/亜鉛め っき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8400)</p>

つづく

つづき

葺材	(2) めっき鋼板	<p>⑯アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8027)</p> <p>⑰ポリエステル樹脂系塗装／アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8028)</p> <p>⑱塗装／チタン亜鉛合金板張／亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9425)</p> <p>⑲塗装／亜鉛合金板／亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9425)</p> <p>⑳亜鉛合金板張／鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-0043、NM-0047)</p> <p>㉑ウレタン樹脂系塗装亜鉛合金板張／合成樹脂装鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-0040、NM-0044)</p> <p>㉒亜鉛合金板張／合成樹脂塗装鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-0041、NM-0045)</p> <p>㉓ウレタン樹脂系塗装亜鉛合金板張／鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-0042、NM-0046)</p> <p>厚さ：0.35～1.2mm (但し、材料⑱、⑲の厚さ1mm以上) 降伏点：205N/mm²以上</p>
	(3) 銅合金板	<p>材料：伸銅品 (JIS H 0500)、(JIS H 5120) 又は (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8586～8595 の一)</p> <p>厚さ：0.4mm 以上 降伏点：205N/mm² 以上</p>
	(4) チタン板	<p>材料：チタン展伸材 (JIS H 4600)、(JIS H 4657) 又は (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8596)</p> <p>厚さ：0.4mm 以上 降伏点：205N/mm² 以上</p>
	(5) アルミニウム合金板	<p>材料：①～④の一</p> <p>①カラーアルミ (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8597、NM-8598)</p> <p>②アルミニウム板 (JIS H 4000)</p> <p>③塗装アルミニウム合金押出形材又は塗装アルミニウム板 (JIS H 4100)、 (JIS H 4001)</p> <p>④両面合成樹脂塗装／アルミニウム合金板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-3555)</p> <p>厚さ：0.5mm 以上 降伏点：35N/mm² 以上</p>

つづく

葺材	裏打材	材料：(1)、(2)又は(3) 厚さ：10mm以下 密度：25kg/m ³ 以上
	(1)なし	材料：なし
	(2)合成樹脂系	材料：①～⑤の一 ①ポリエチレンフォーム 組成(質量%)： ポリエチレンフォーム 99.5以下 発泡剤等 0.5以上 ②難燃ポリエチレンフォーム 組成(質量%)： ポリエチレンフォーム 87.0以下 難燃剤(テトラプロモフタルイミド等) 8.7以上 無機質 4.3以上 ③無機質高充てんフォームプラスチック 組成(質量%)： ・有機系樹脂 エチレン酢ビ共重合体 34.4～40.85 オレフィン系樹脂 2.15～8.6 ・無機質系充てん剤：1)又は2) 1)水酸化マグネシウム 21以上 水酸化アルミニウム 23以上 三酸化アンチモン 2以下 2)水酸化アルミニウム 38以上 三酸化アンチモン 8以下 ・難燃剤他 難燃剤 7以上 三酸化アンチモン 4以下 ④ポリエチレン系樹脂 組成(質量%)： ポリエチレン系樹脂 37.5(±3.7) 水酸化マグネシウム 22.3(±2.2) 水酸化アルミニウム 23.8(±2.3) 三酸化アンチモン 3.8(±0.4) 臭素系難燃剤 11.5(±1.1) 有機系顔料 1.1(±1.1) ⑤ポリエチレン系樹脂 組成(質量%)： ポリエチレン系樹脂 40.0(±4.0) 水酸化マグネシウム 32.0(±3.2) 水酸化アルミニウム 14.0(±1.4) 三酸化アンチモン 4.0(±0.5) 臭素系難燃剤 9.0(±0.9) 有機質系添加剤(ヒンダートフェノール系) 酸化防止剤等 0.5(±0.05) 有機系顔料(アゾ系顔料等) 0.5(±0.05)

つづき

<p>葺材</p>	<p>裏打材</p>	<p>(3) 無機質系</p>	<p>材料：①～⑥のー</p> <p>①ポリエステル系繊維不織布張／グラスウール保温板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8375)</p> <p>②ポリエステル樹脂系繊維不織布張グラス繊維シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラス繊維シート <p>組成(質量%)：</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>グラス繊維</td> <td>82 以上</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂</td> <td>13 以下</td> </tr> <tr> <td>アクリル樹脂</td> <td>5 以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリエステル樹脂系繊維不織布 <p>単位面積質量：40g/m² 以下</p> <p>③合成樹脂エマルジョン処理ポリエステル不織布張グラス繊維シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラス繊維シート <p>組成(質量%)：</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>グラス繊維</td> <td>90 以上</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂</td> <td>10 以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・合成樹脂エマルジョン処理ポリエステル不織布 <p>単位面積質量：50g/m² 以下(片面 25g/m² 以下)</p> <p>ポリエステル不織布 20g/m² 以下(片面 10g/m² 以下)</p> <p>合成樹脂エマルジョン 30g/m² 以下(片面 15g/m² 以下)</p> <p>組成(質量%)：</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>リン含クロル系(防炎剤)</td> <td>50 (±5)</td> </tr> <tr> <td>塩化ビニルエマルジョン</td> <td>40 (±4)</td> </tr> <tr> <td>アクリルエマルジョン</td> <td>10 (±1)</td> </tr> </table> <p>④ロックウールフェルト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロックウールフェルト <p>組成(質量%)：</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>ロックウール</td> <td>97 以上</td> </tr> <tr> <td>アクリル樹脂</td> <td>3 以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリエステル不織布 <p>単位面積質量：15g/m² 以下</p> <p>⑤セラミック繊維シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミナシリケート繊維不織布シート <p>組成(質量%)：</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>アルミナシリケート繊維</td> <td>96 以上</td> </tr> <tr> <td>エチレン酢酸ビニル樹脂</td> <td>4 以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリエステル不織布 <p>単位面積質量：15g/m² 以下</p> <p>⑥人造鉱物繊維保温材 (JIS A 9504)</p>	グラス繊維	82 以上	ポリエステル樹脂	13 以下	アクリル樹脂	5 以下	グラス繊維	90 以上	ポリエステル樹脂	10 以下	リン含クロル系(防炎剤)	50 (±5)	塩化ビニルエマルジョン	40 (±4)	アクリルエマルジョン	10 (±1)	ロックウール	97 以上	アクリル樹脂	3 以下	アルミナシリケート繊維	96 以上	エチレン酢酸ビニル樹脂	4 以下
グラス繊維	82 以上																										
ポリエステル樹脂	13 以下																										
アクリル樹脂	5 以下																										
グラス繊維	90 以上																										
ポリエステル樹脂	10 以下																										
リン含クロル系(防炎剤)	50 (±5)																										
塩化ビニルエマルジョン	40 (±4)																										
アクリルエマルジョン	10 (±1)																										
ロックウール	97 以上																										
アクリル樹脂	3 以下																										
アルミナシリケート繊維	96 以上																										
エチレン酢酸ビニル樹脂	4 以下																										
<p>野地板</p>		<p>構成：(1)～(3)の材料を(4)で張合せた複合板</p> <p>厚さ：38 (-4)～70 (±7) mm</p>																									
	<p>(1) 上張材</p>	<p>材料：硬質木片セメント板 (JIS A 5404)</p> <p>厚さ：18 (-1)～25 (+2) mm</p> <p>密度：1.1 (-0.1) g/cm³ 以上</p>																									

つづく

野 地 板	(2) 断熱材	<p>仕様：フェノールフォーム保温板 材料：①～⑧の一</p> <p>①フェノールフォーム保温板 (JIS A 9511)、又は (JIS A 9521) 構成：1) 及び 2)</p> <p>1) フェノール樹脂発泡体 組成 (質量%)： フェノール樹脂 94 (±2) 発泡材 6 (±2) 密度：40 (±5) kg/m³</p> <p>2) 面材 (両面張り) 材質：a)、b) 又は c)</p> <p>a) 無機質充てんガラス繊維不織布 厚さ：0.26 (±0.026) ～0.5mm (片面当たり) 質量：102 (±8) ～150g/m² (片面当たり)</p> <p>b) アルミニウム箔張ガラス繊維不織布 厚さ：0.26 (±0.026) ～0.5mm (片面当たり) 質量：102 (±8) ～600g/m² (片面当たり)</p> <p>c) 無機系の加工紙 (けい酸マグネシウム紙、ガラス繊維紙、ガラス繊維混抄紙、アルミニウムはく・ガラス繊維複合紙、アルミニウムはく・ガラス繊維混抄複合紙) 厚さ：0.26 (±0.026) ～0.5mm (片面当たり) 質量：102 (±8) ～600g/m² (片面当たり)</p> <p>②両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム裏張／ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2596)</p> <p>③両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム裏張／ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張合成樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2594)</p> <p>④両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム充てん／両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2592)</p> <p>⑤両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム充てん／両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張合成樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2590)</p> <p>⑥両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム充てん／両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張アクリル系樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2209)</p> <p>⑦両面合成樹脂・ガラス繊維混抄紙張フェノールフォーム充てん／両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張合成樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-1973)</p> <p>⑧両面ガラス繊維混抄紙フェノールフォーム裏張／合成樹脂塗装水酸化アルミニウム紙張アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2829)</p> <p>厚さ：20 (±2) mm (但し、単板、重張り又は (1) 上張材及び (1) 上張材及び材料②～⑧を、予め工場で張合わせた複合板としても良い)</p> <p>密度：40 (±5) kg/m³</p>
-------------	---------	--

つづき

野 地 板	(3) 化粧材	仕様：なし
	(4) 張合材	仕様：あり又はなし 材料：①～③の一 ①酢酸ビニル系接着剤 塗布量(有機質量)：133(+13) g/m ² 以下 ②無機質系接着剤 塗布量：200g/m ² 以上 ③ステープル又はくぎ 長さ：25mm 以上
たるき用・補強た るき用耐火被覆	材料：①又は② ①繊維混入けい酸カルシウム板(JIS A 5430) 密度：0.35g/cm ³ 以上 ②吹付けロックウール 組成(質量%) ロックウール 60(±5) (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8600)、(JIS A 9504) セメント 40(±5) (ポルトランドセメント(JIS R 5210)、又は白色セメント) 但し、ポルトランドセメントは普通ポルトランドセメント、早強ポルトラ ンドセメント、超早強ポルトランドセメントのいずれかとする 密度：0.28g/cm ³ 以上 厚さ：25mm 以上	

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項目	仕様
裏打材用接着剤 (裏打材を使用する場合)	種類：①～④の一 ①スチレンブタジエンゴム系 ②アクリル系樹脂 ③ウレタン系樹脂 ④合成ゴム系(ホットメルト含む) 塗布量(有機質量)：200g/m ² 以下
たるき取付金具	材料：①、又は①及び② ①一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 形状・寸法：山形鋼 L-75×50×6mm 以上 ②一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 形状・寸法：平鋼 FB-6×75×65mm 以上 (補強たる木及びダブル部位仕様) 取付間隔：910mm 以下 留付材：アーク溶接 溶接幅：3mm 以上 隅肉溶接長さ：20mm 以上 取付箇所：4箇所以上
たるき留付材	材料：①及び②、又は③ ①六角ボルト(JIS B 1180) 寸法：M12×長さ 25mm 以上 ②ナット(JIS B 1181) 寸法：M12 以上 ③アーク溶接 溶接幅：2.3mm 以上 隅肉溶接長さ：20mm 以上
補強たるき	仕様：あり又はなし 材料、塗装：たるきと同じ 形状：①又は② ①□形 寸法：□-100×50×20×2.3mm 以上 取付位置・間隔：並行方向・1820mm 以下 ②角形 寸法：1)～3)の一 1) □-100×50×2.3mm 以上 2) □-75×75×2.3mm 以上 3) □-80×70×2.3mm 以上 取付位置・間隔：直交方向・914mm 以下 留付材：溶接又はスペーサーと溶接の併用 スペーサー(あり又はなし) 材料：一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 厚さ：2.3mm 以上 幅：180mm 以上 アーク溶接 溶接幅：3mm 以上、隅肉溶接長さ：20mm 以上 取付箇所：4箇所以上

つづく

つづき

たるき用・補強たるき用耐火被覆留付材(①繊維混入けい酸カルシウム板を用いる場合)	材料：①及び② ①タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4×長さ40mm以上 留付間隔：400mm以下 ②接着材 材質：けい酸ナトリウム系 使用量：200g/m ² 以上
野地板用留付材	材料：タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4(-0.4)×長さ37(-4)mm以上 (複合板仕様の場合は長さ60mm以上) 留付間隔：405mm以下
防水紙	材料：①～⑦の一 ①アスファルトルーフィングフェルト(JIS A 6005) 単位面積質量：1500g/m ² 以下 ②合成高分子系ルーフィングシート(JIS A 6008) 厚さ：2.0mm以下 ③改質アスファルトルーフィングシート(JIS A 6013) 厚さ：2.5mm以下 ④透湿防水シート(JIS A 6111) 厚さ：1.5mm以下 ⑤透湿ルーフィングシート 組成(質量%)： 基 材：ポリエチレン不織布 70.9(±3.0) 表面材：ポリエステル不織布 19.0(±2.0) 接着剤：エチレン-プロピレン共重合体 5.0(±0.5) 防滑剤：ブタン内包発泡/アクリル樹脂 3.2(±0.3) 防滑剤：スチレン-アクリル酸共重合体 1.9(±0.2) 厚さ：0.41mm以下 ⑥防水・透湿シート 組成(質量%)： 高密度ポリエチレン 98 添加剤(酸化・紫外線劣化防止剤等) 1 コーティング剤(アクリル樹脂) 0.7 アルミニウム 0.3 厚さ：0.5mm以下 ⑦粘着透湿ルーフィング 組成(質量%)： 不織布(両面)：ポリプロピレン 75.758(±2.5) フィルム：ポリエチレン 4.546(±0.5) 接着剤：ポリウレタン/ポリエチレン 10.605(±1.1) 粘着剤：ポリウレタン/アクリル酸オクチル 9.088(±0.9) 有機顔料：インク 0.003(±0.01) 厚さ：1.0mm以下 有機質量：132(±13)g/m ² 有機質量：1500g/m ² 以下

つづく

つづき

吊子	<p>葺材仕様：①～④又は⑥の一 構成：1) 及び 2)</p> <p>1) 吊子 材料：葺材と同じ 厚さ：0.35mm 以上、但し、カラーアルミの場合は 0.6mm 以上 幅：35(-4)mm 以上 長さ：50(-5)mm 以上</p> <p>2) 補強材：あり又はなし 材料：葺材と同じ 厚さ：0.35mm 以上 形状：a)、b) 又は c)</p> <p>a) 平板 寸法：50×100mm 以上</p> <p>b) ハット形 寸法：10×40×10mm 以上</p> <p>c) Z形 寸法：40×10×40mm 以上</p> <p>取付間隔：910mm 以下 (葺材仕様⑥は両端に取付ける)</p>
吊子留付材	<p>葺材仕様：①～④又は⑥の一 材料①～④の場合： 材料：タッピンねじ 寸法：呼び径φ4(-0.4)×長さ 16(-2)mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製</p> <p>材料⑥の場合： 材料：1) 及び 2)</p> <p>1) 六角ボルト 寸法：M6×20mm 以上</p> <p>2) ナット 寸法：M6 以上</p> <p>材質：鋼製又はステンレス鋼製</p>
タイトフレーム	<p>葺材仕様：⑥ 材料：葺材と同じ 厚さ：0.35mm 以上 幅：35mm 以上 間隔：910mm 以下</p>
タイトフレーム留付金具	<p>葺材仕様：⑥ 材料：1) 又は 2)</p> <p>1) タッピンねじ 寸法：呼び径φ4(-0.4)×長さ 20(-2)mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製</p> <p>2) アーク溶接 溶接幅：2.3mm 以上 隅肉溶接長さ：20mm 以上</p>
キャップ	<p>葺材仕様②～④、⑥：あり又はなし (馳締め仕様の場合) 材料：葺材と同じ材質 厚さ：葺材と同じ寸法</p>

つづく

つづき

葺材留付材	葺材仕様：⑤ 材料：タッピンねじ 寸法：呼び径 $\phi 4(-0.4)$ ×長さ $20(-2)$ mm以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：1212(+121)mm以下
補助材	葺材仕様：①又は④ 材料：1)又は2) 1)無機系繊維板 2)木質系セメント板 厚さ：10mm以上
ジョイナー	仕様：あり又はなし 形状：1)又は2) 1)T形、2)H形 材料：鋼製又はステンレス鋼製 厚さ：0.27(-0.025)mm以上 (但し、ステンレス鋼製の場合0.3(-0.03)mm以上) 塗装 材質：1)～6)の一 1)ポリエステル系 2)アクリル系 3)ウレタン系 4)エポキシ系 5)シリコン系 6)アクリルウレタン系 塗布量：28.5(+3)g/m ² 以下

5. 仕様の構造説明図：

仕様の構造説明図を図1～図26に示す。

図中の単位については、特記のない限りmmとする。

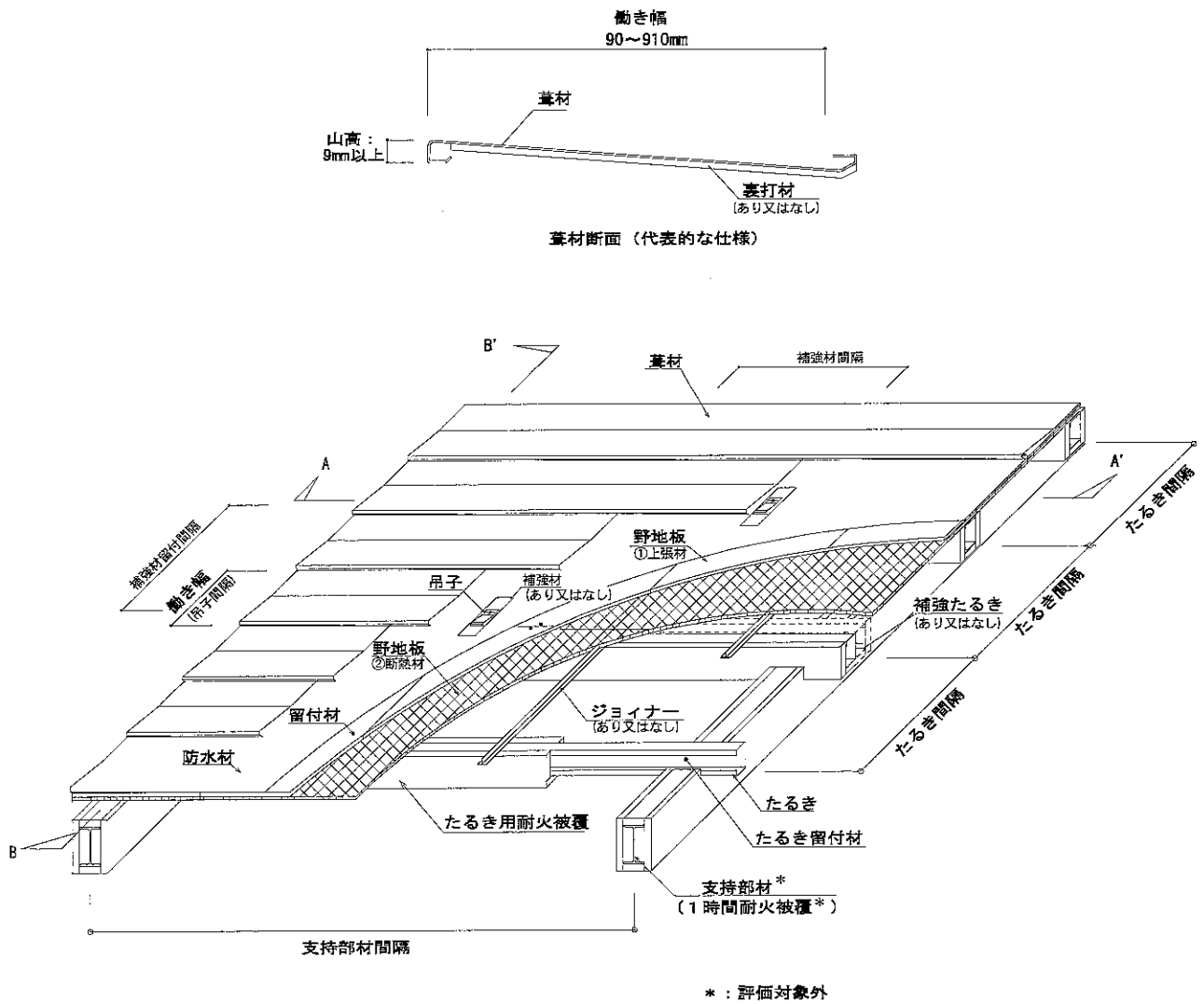
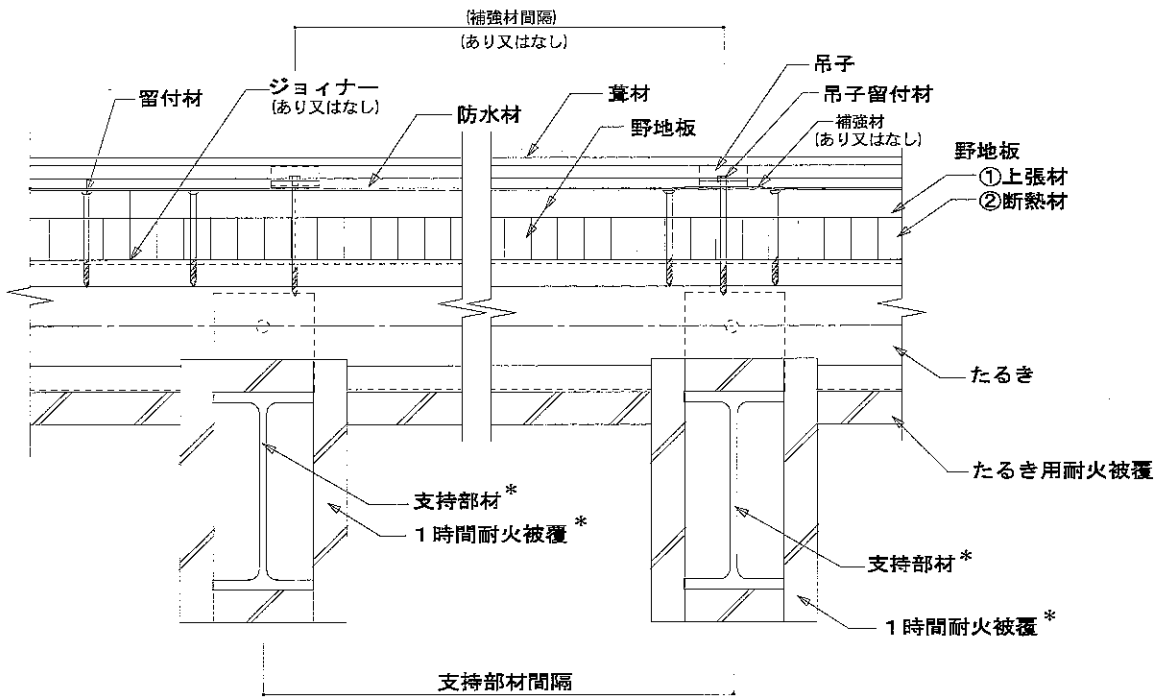
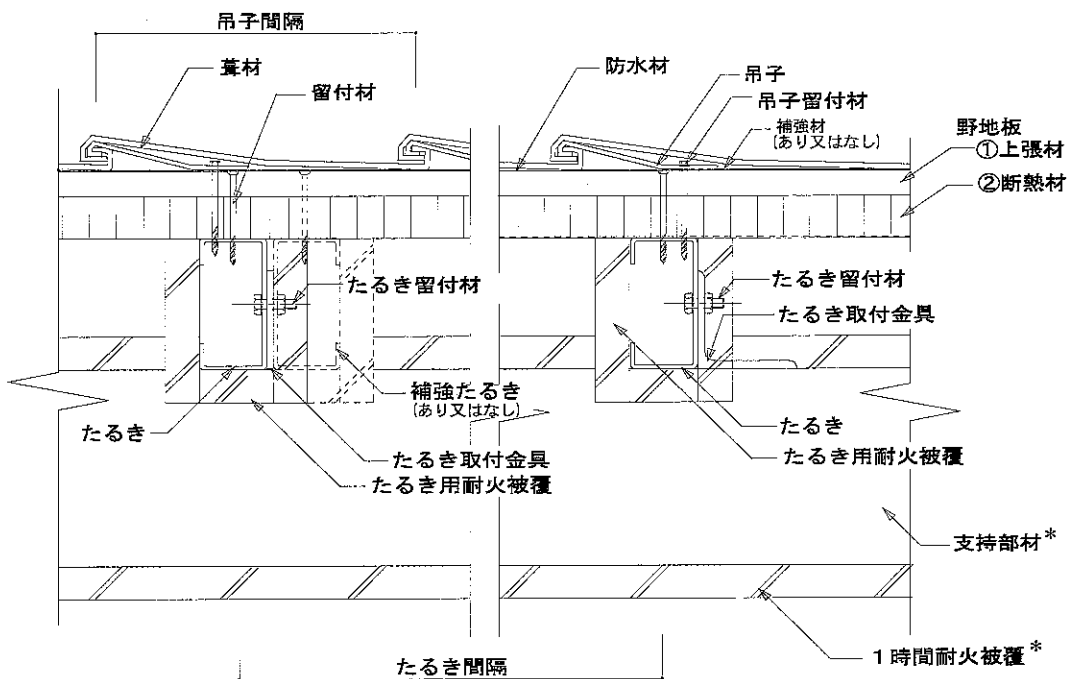


図1 構造説明図 (①横葺仕様) (補強材：平鋼)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図2 構造説明図 (①横葺仕様) (補強材：平鋼)

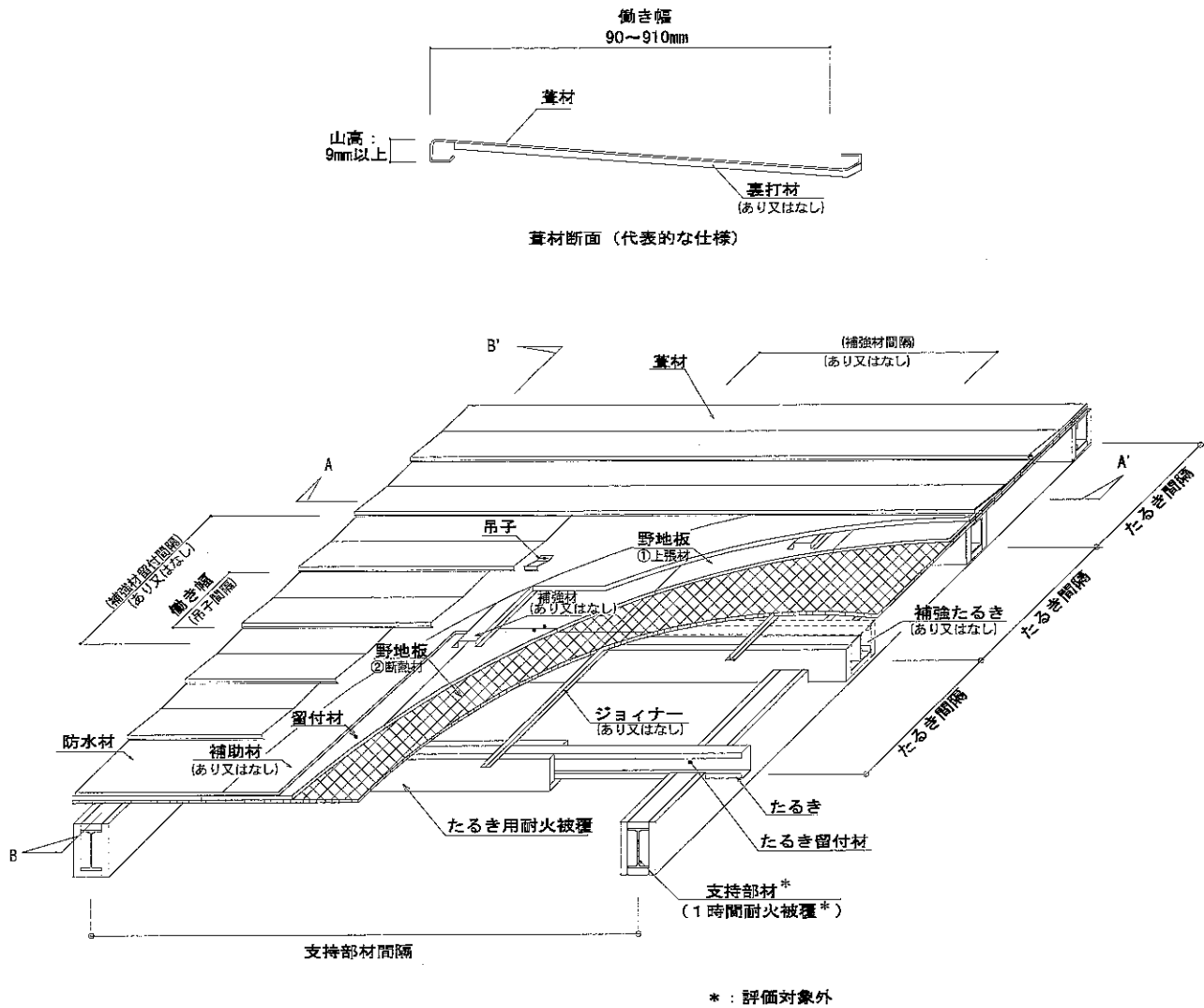
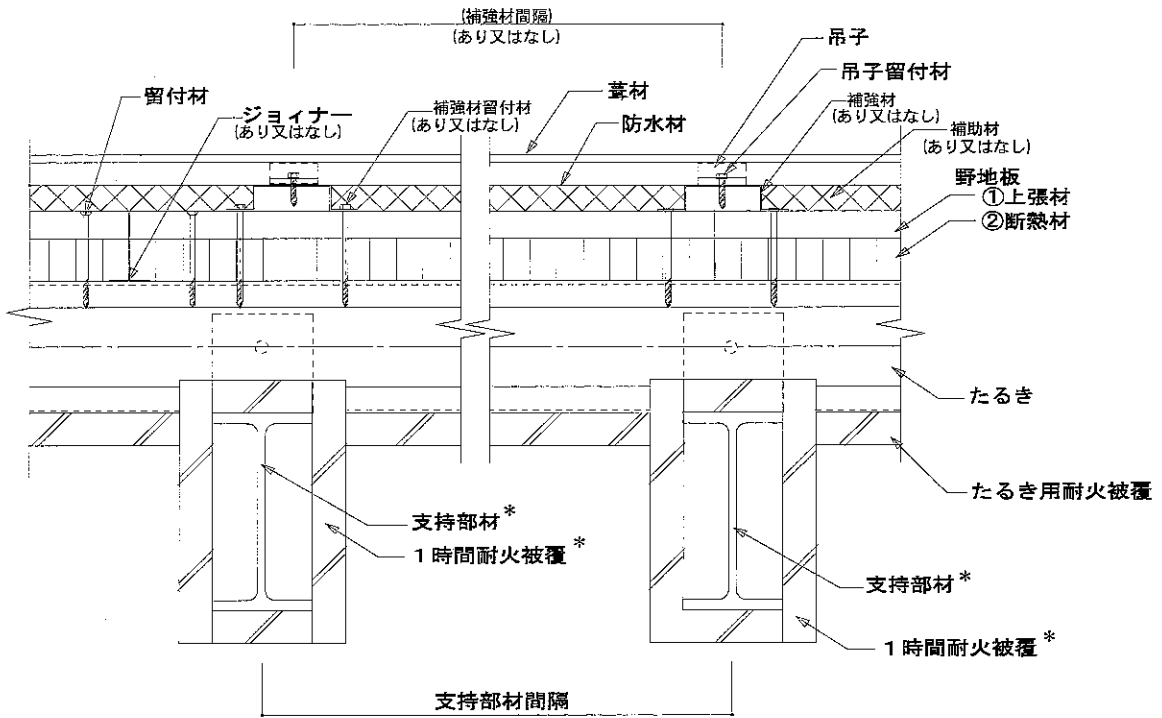
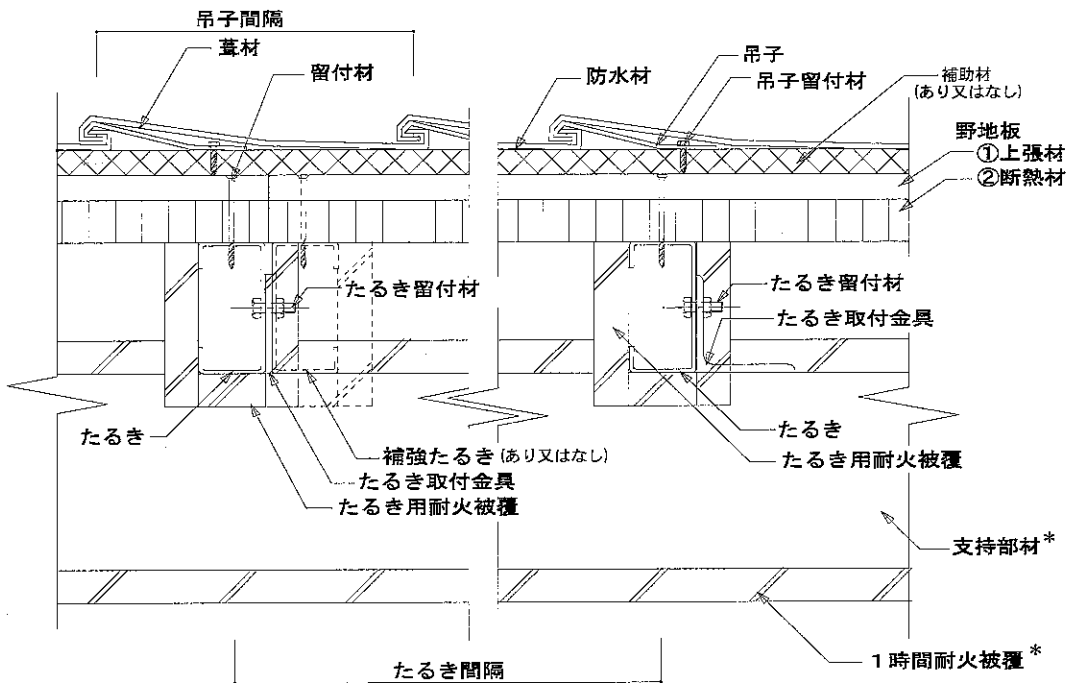


図3 構造説明図 (①横葺仕様) (補強材：「L」形鋼)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図4 構造説明図 (①横葺仕様) (補強材：JL形鋼)

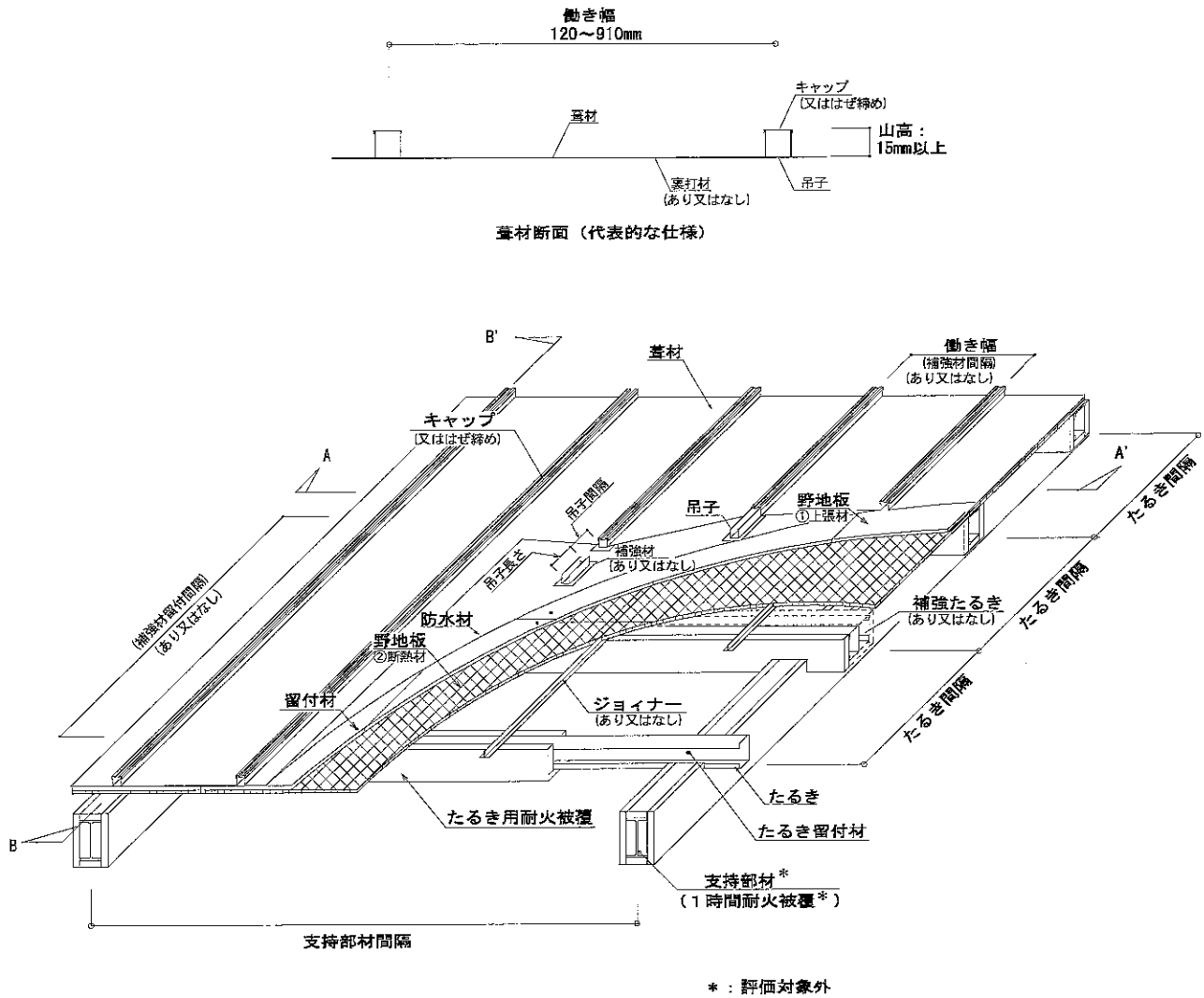
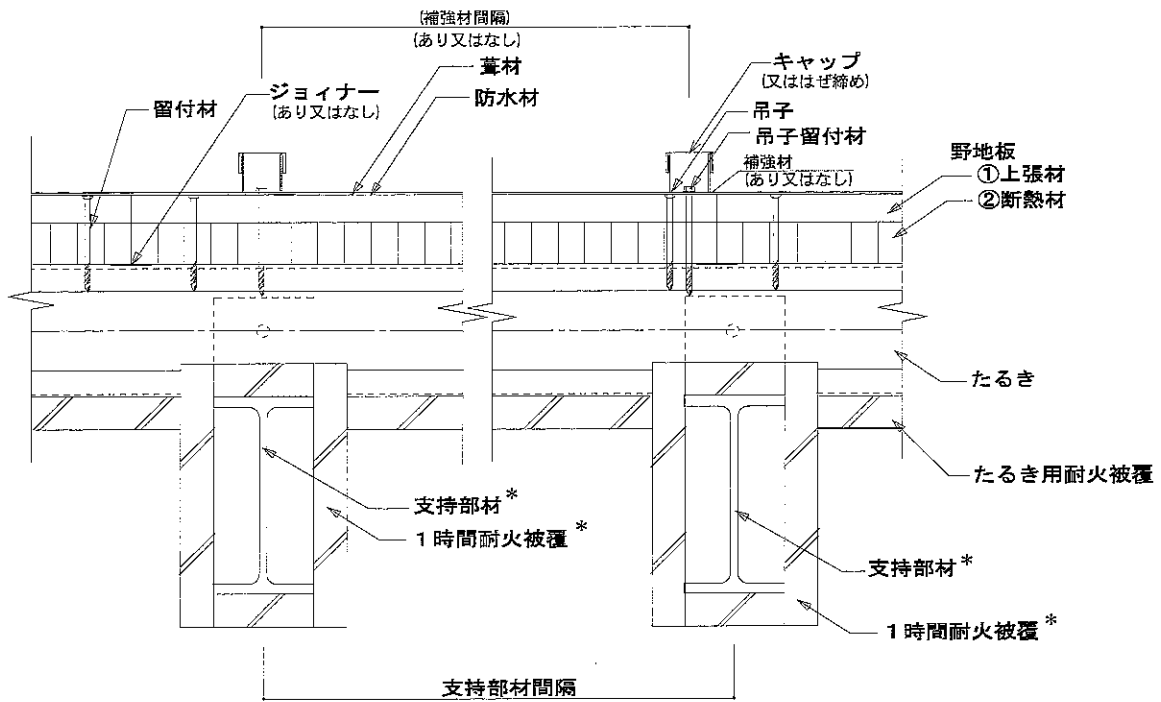
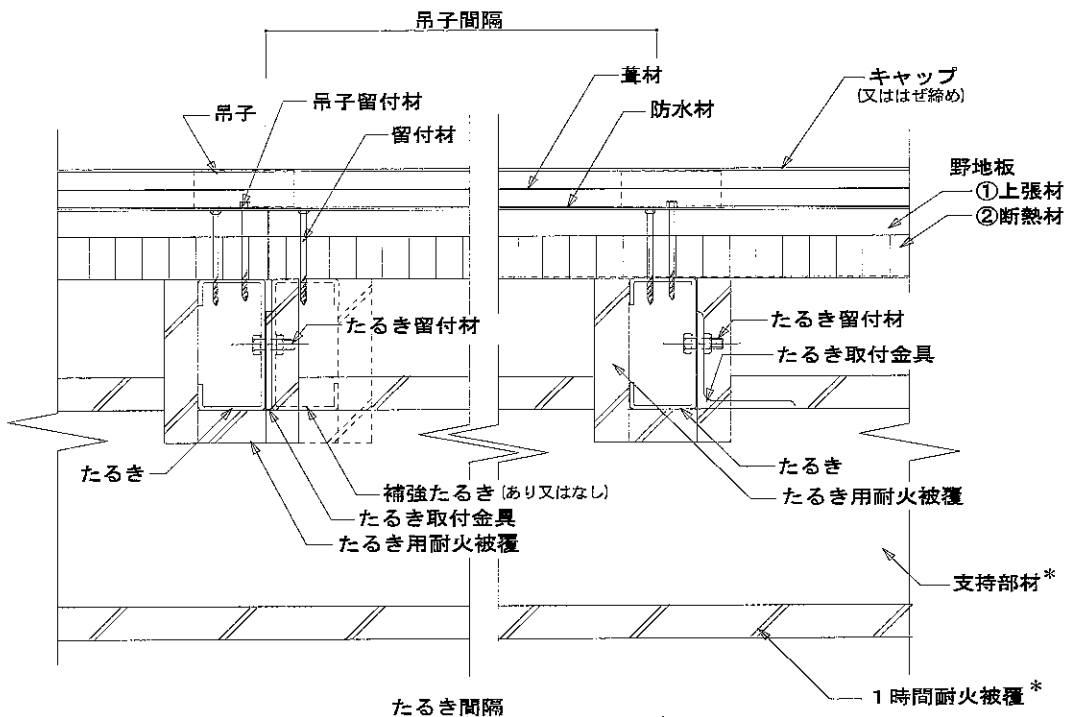


図5 構造説明図 (②瓦棒葺仕様)



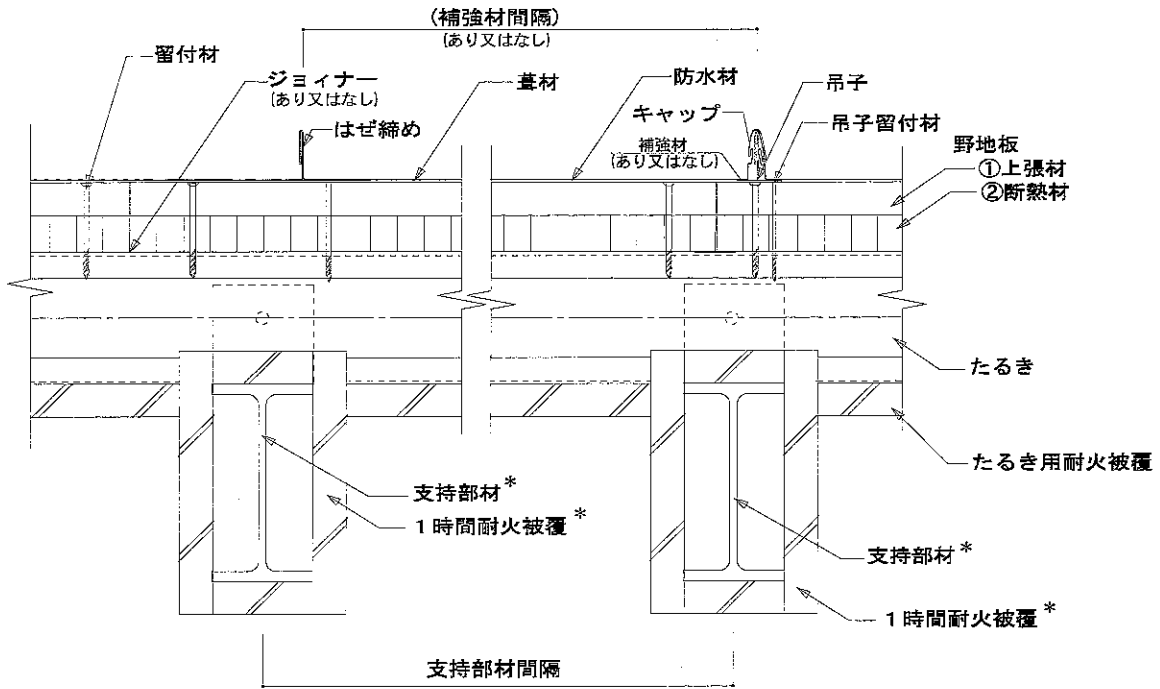
A-A' 断面詳細図



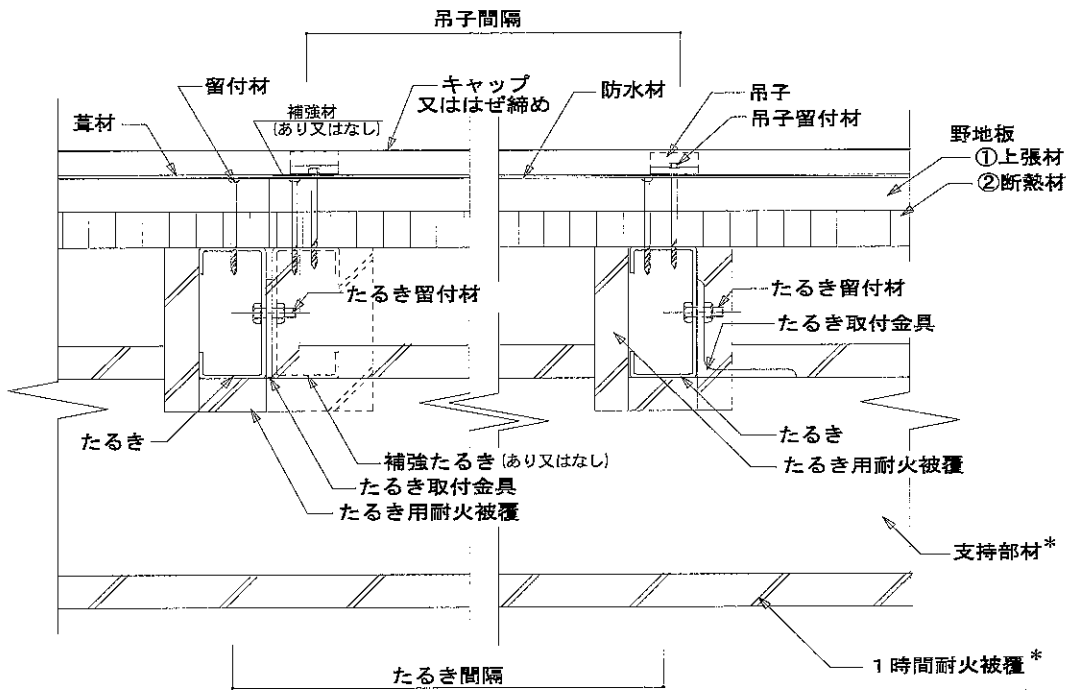
B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図6 構造説明図 (②瓦棒葦仕様)



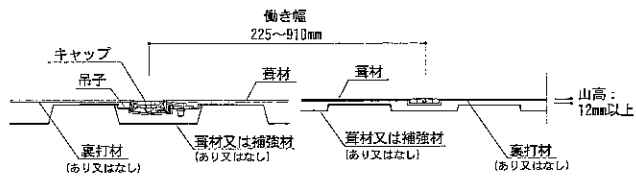
A-A' 断面詳細図



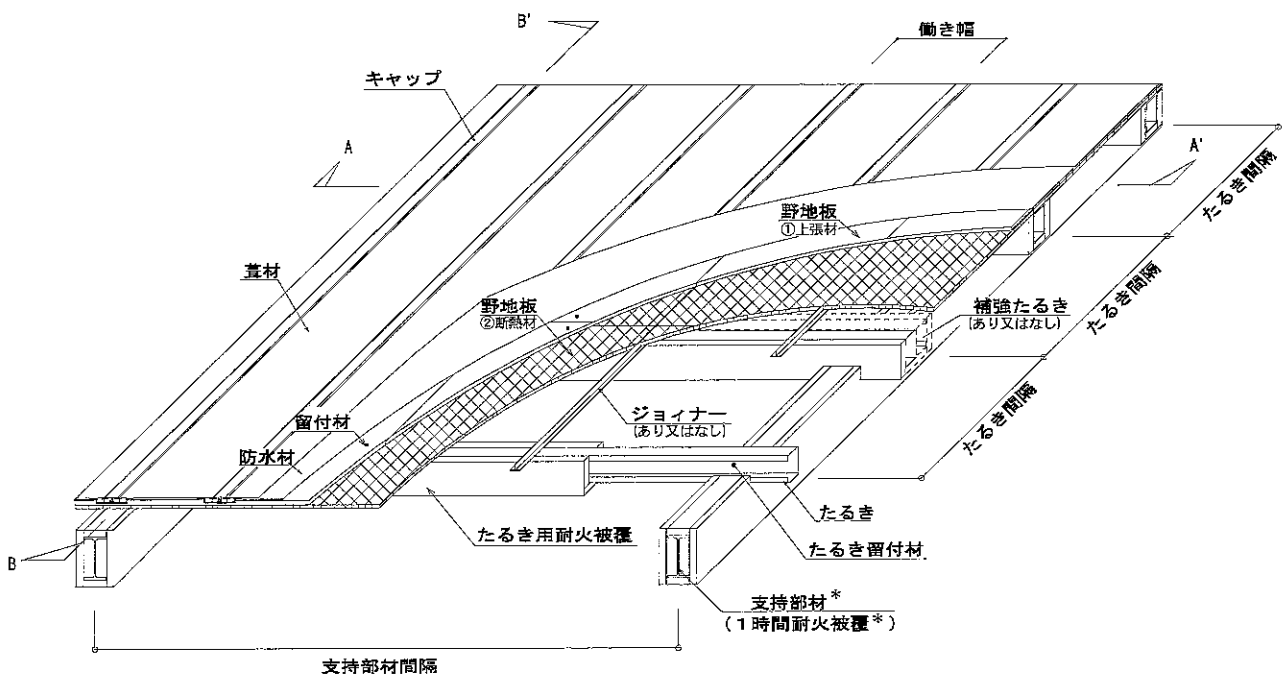
B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図8 構造説明図 (③立平葦仕様)

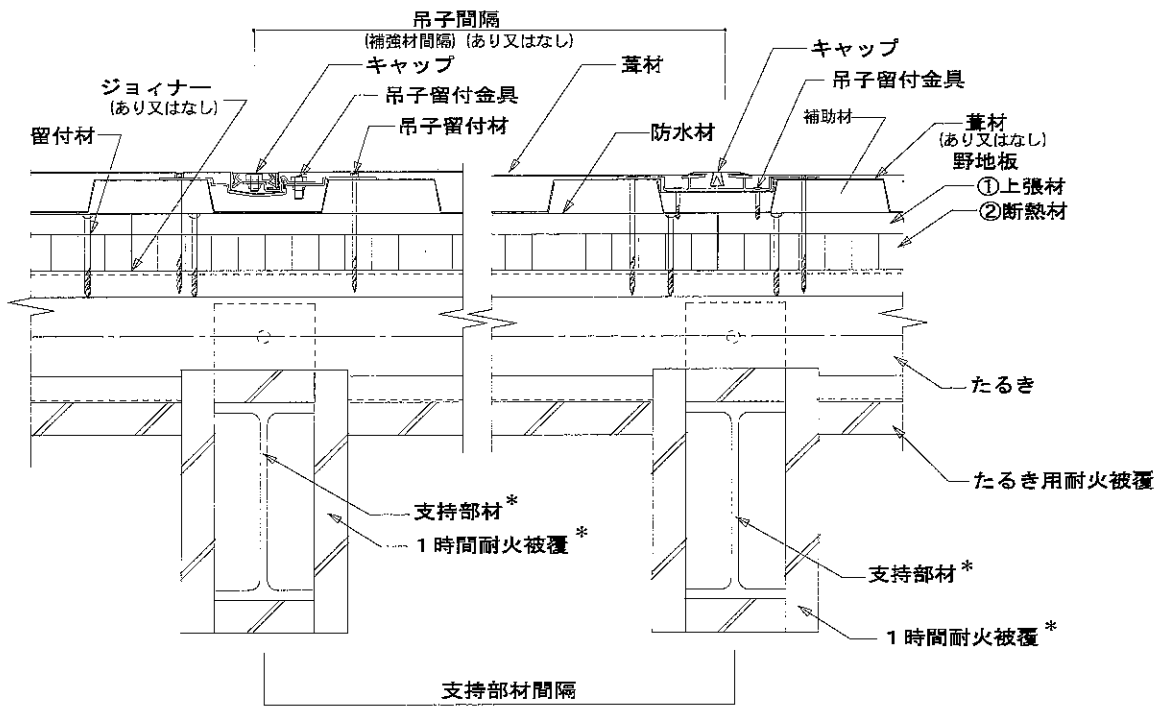


葺材断面図 (代表的な仕様)

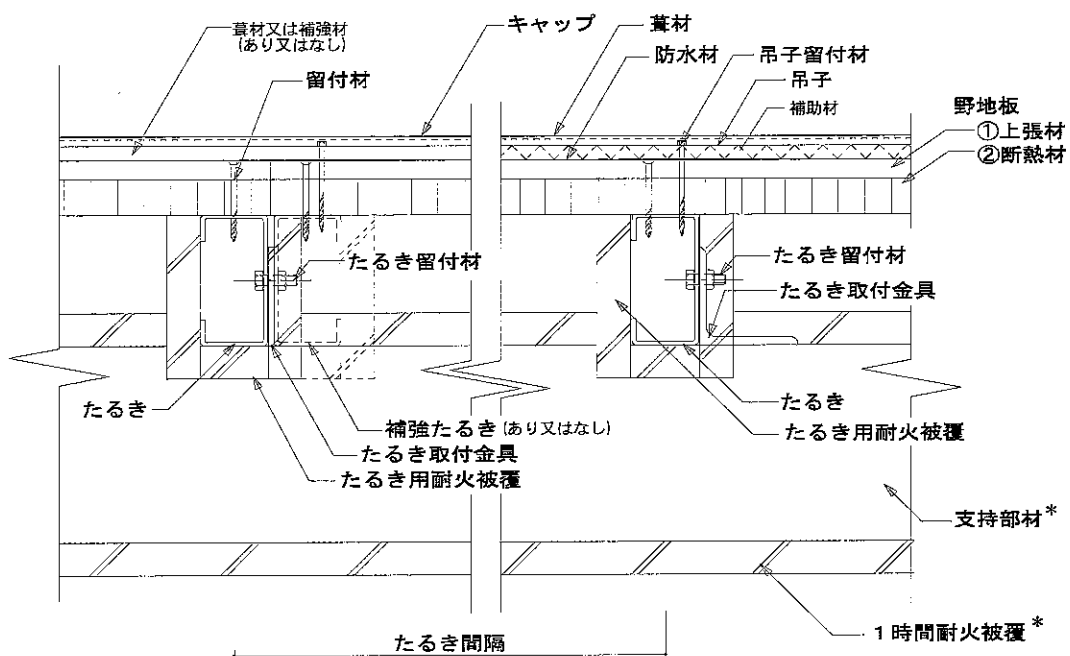


* : 評価対象外

図9 構造説明図 (④平滑葺仕様)



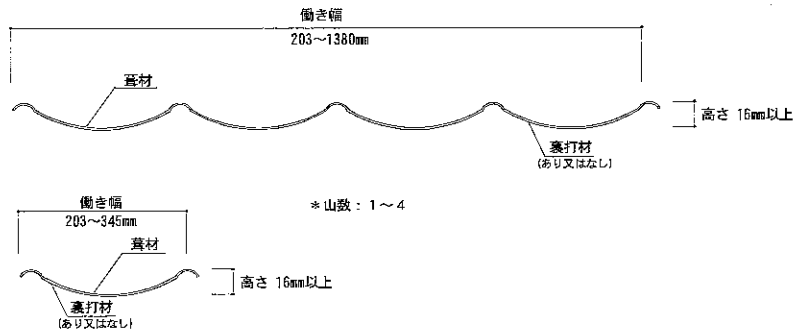
A-A' 断面詳細図



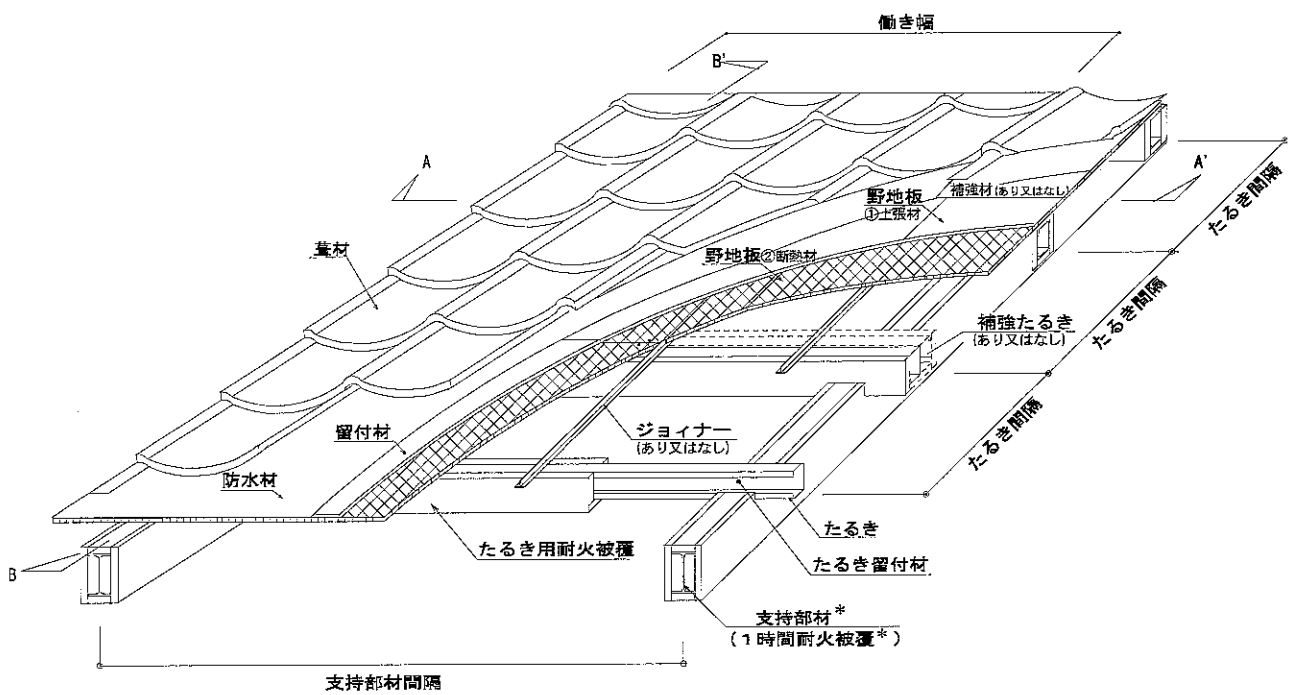
B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図10 構造説明図 (④平滑葦仕様)

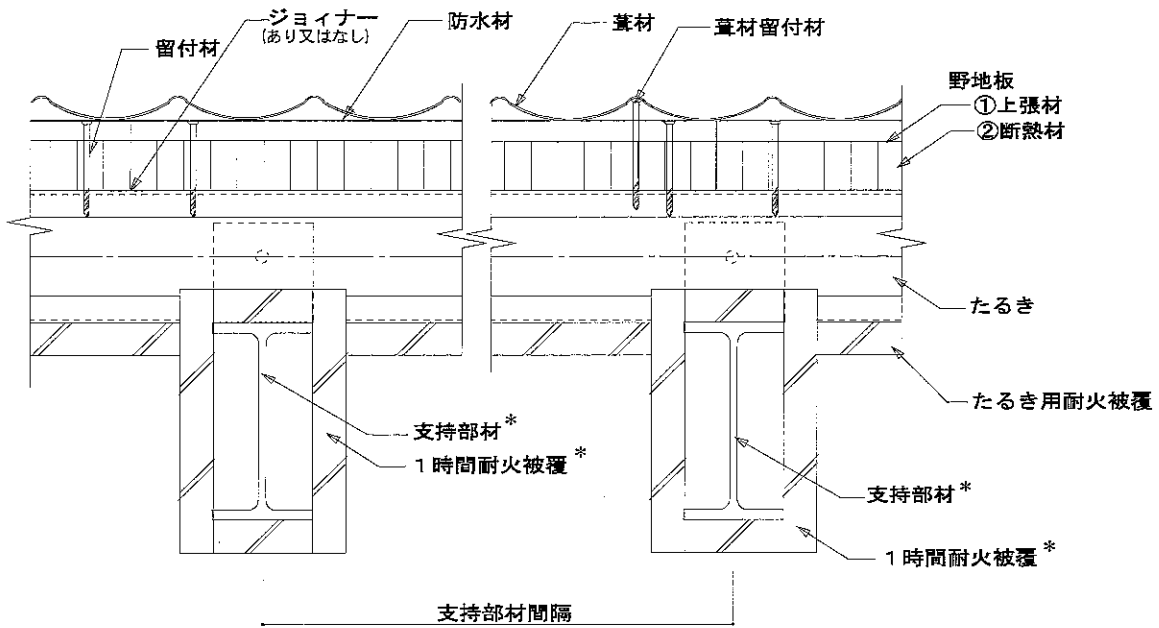


基材断面 (代表的な仕様)

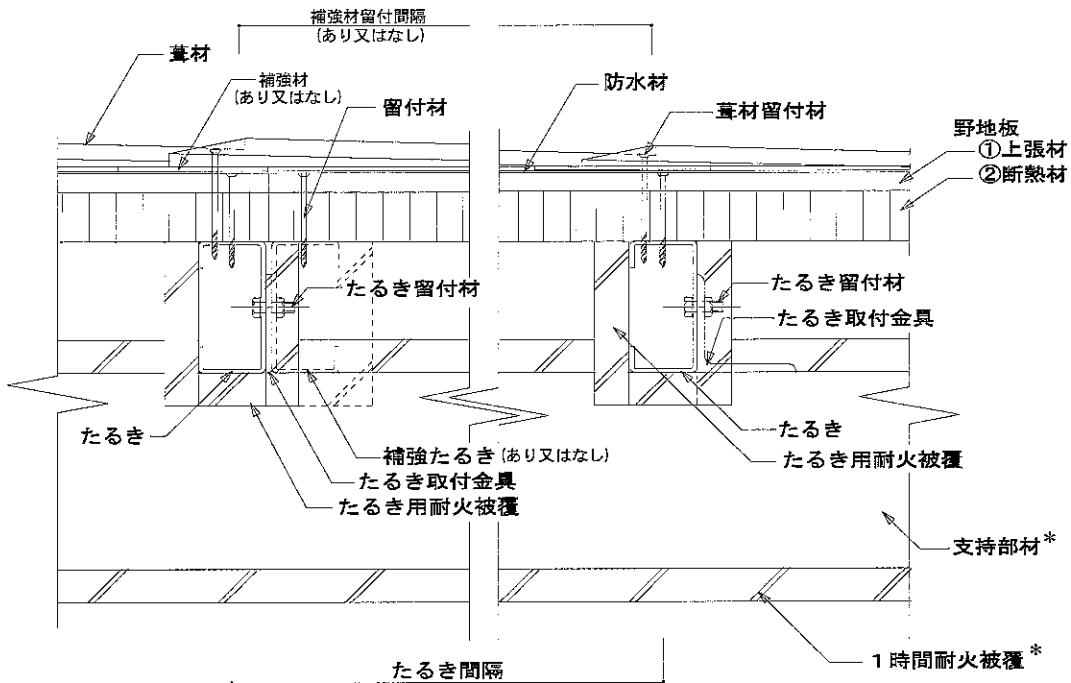


* : 評価対象外

図11 構造説明図 (⑤金属瓦葺仕様)



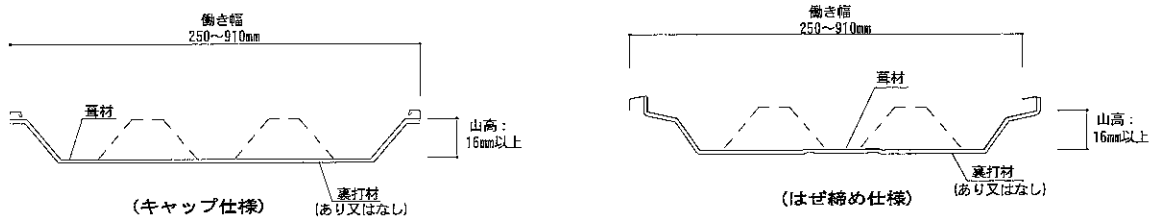
A-A' 断面詳細図



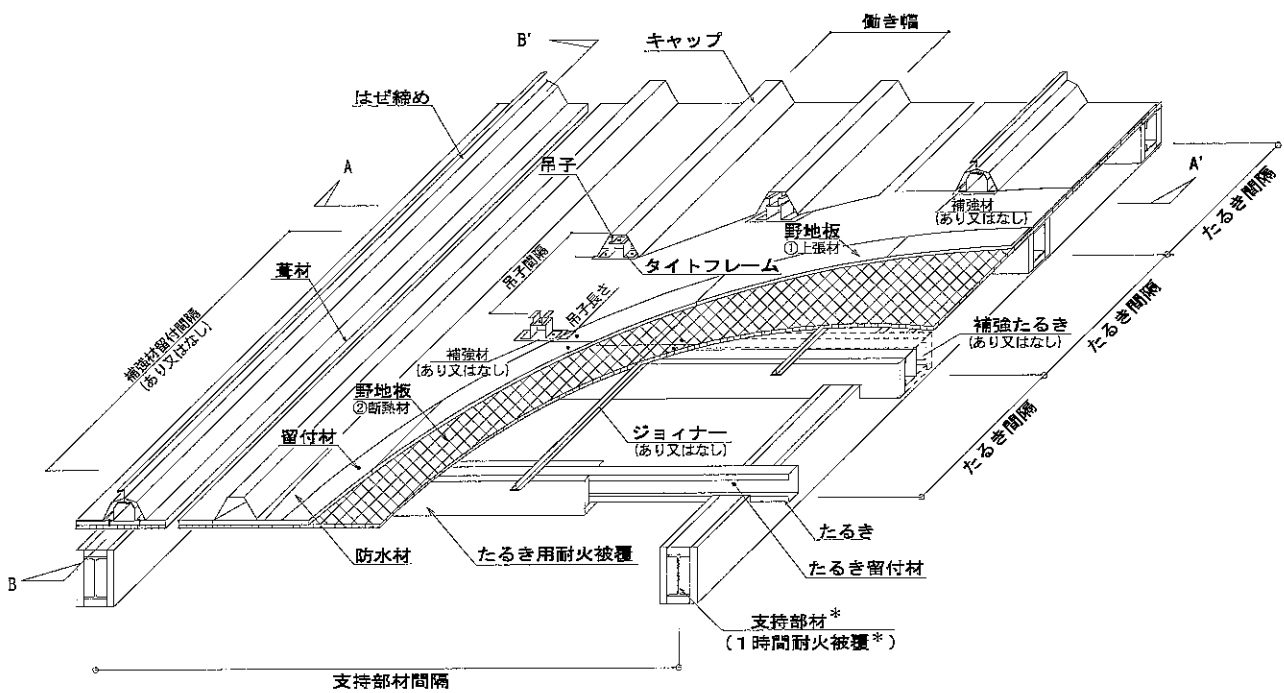
B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図12 構造説明図 (⑤金属瓦葺仕様)

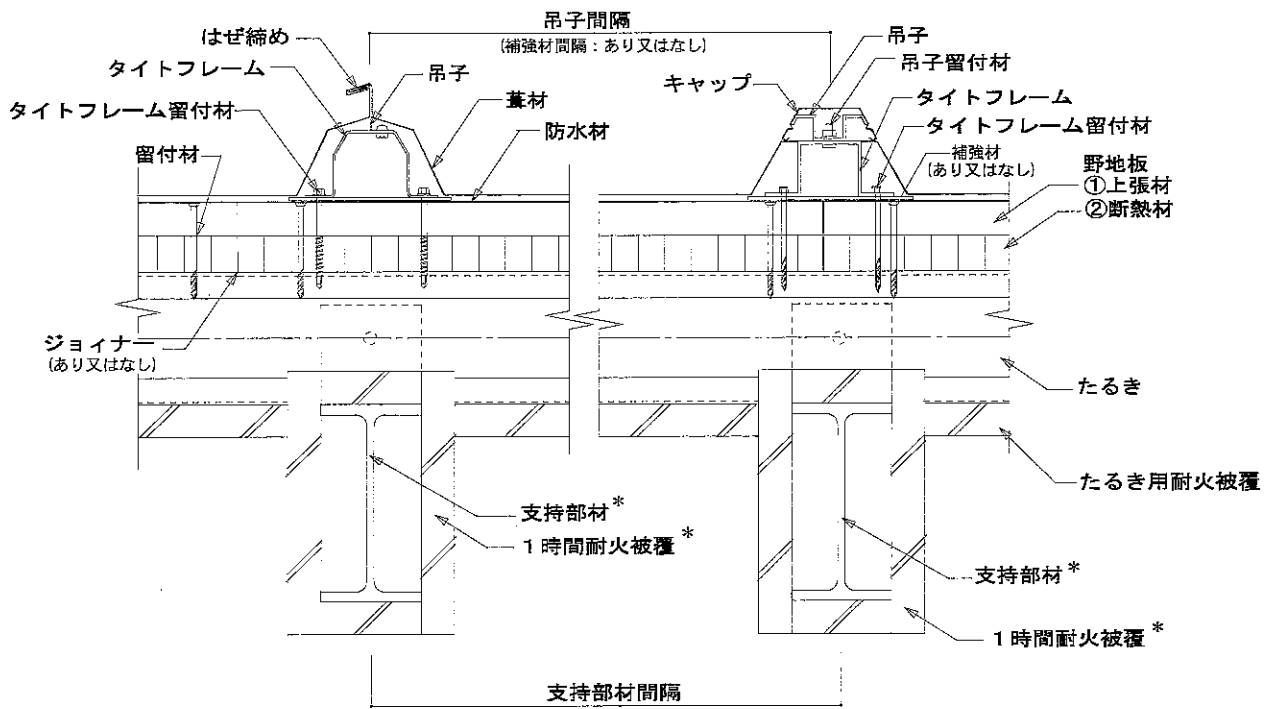


葺材断面 (代表的な仕様)

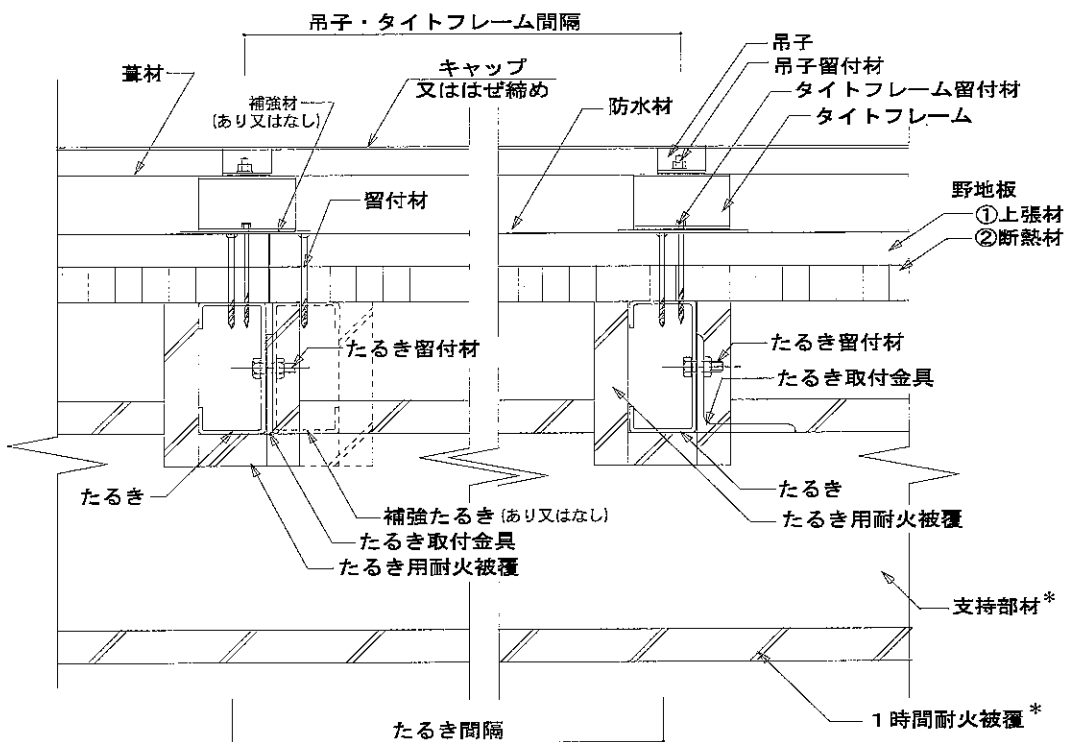


* : 評価対象外

図13 構造説明図 (⑥折板葺仕様)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図14 構造説明図 (⑥折板葦仕様)

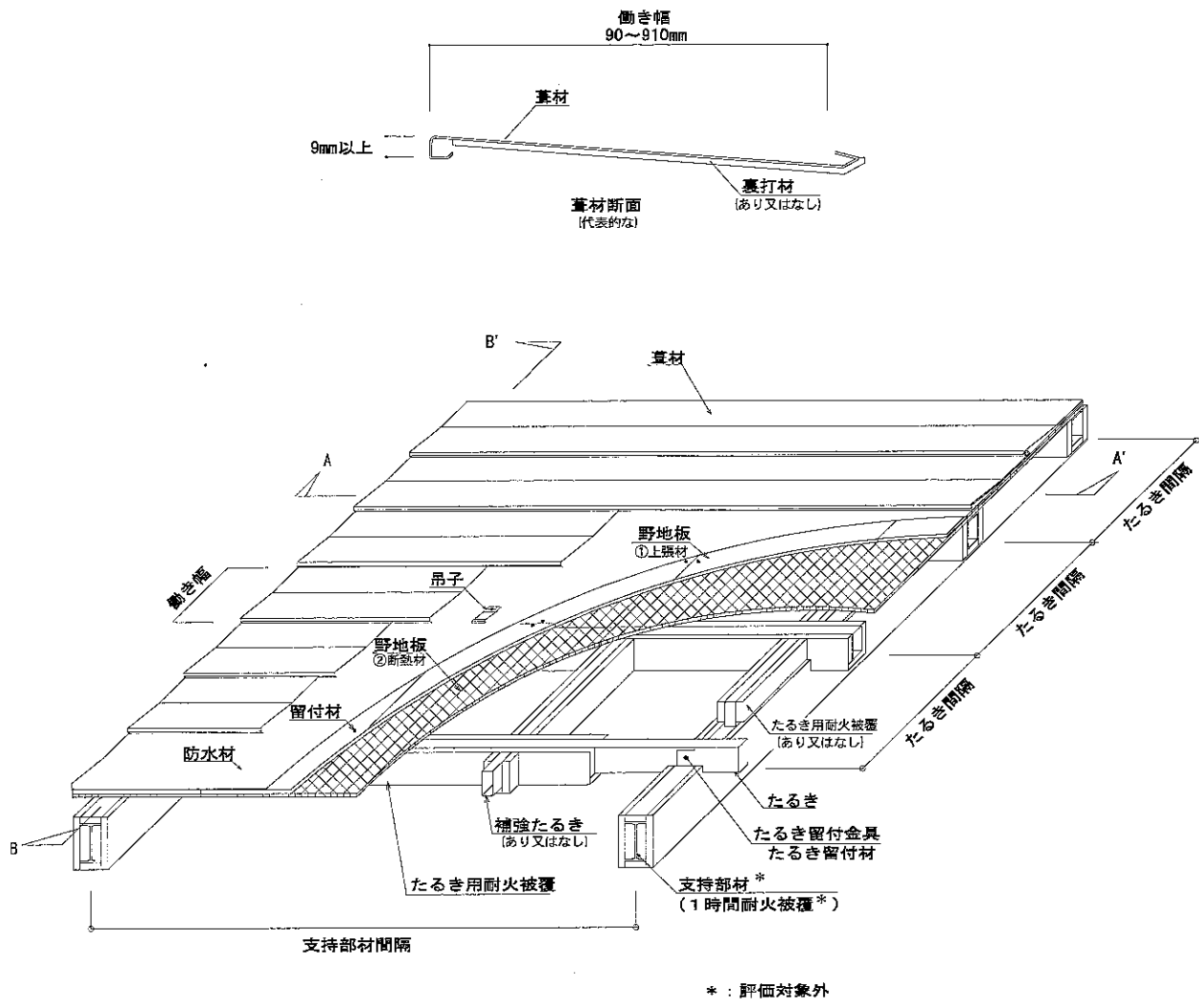
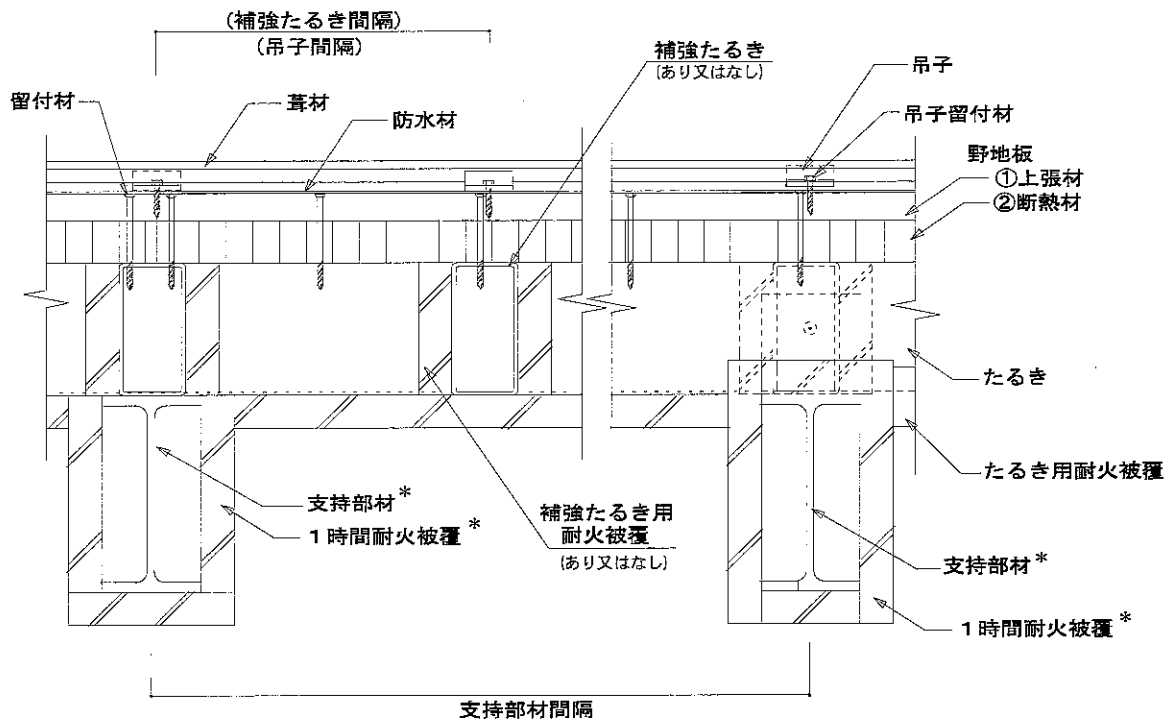
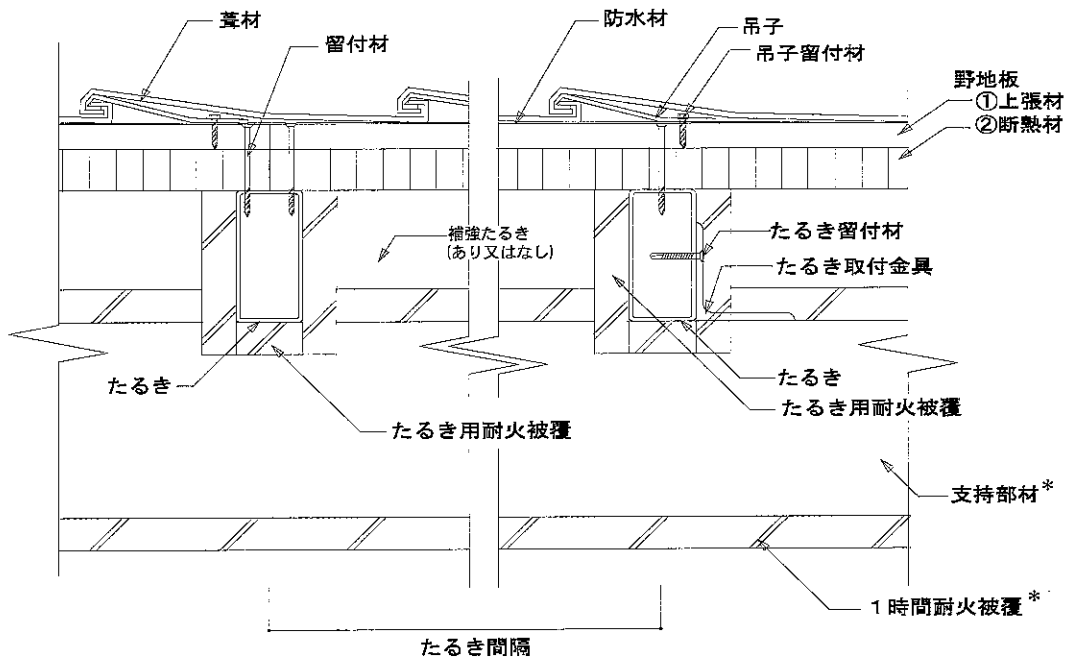


図15 構造説明図 (①横葺/角形仕様)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図16 構造説明図 ①横葺/角形仕様

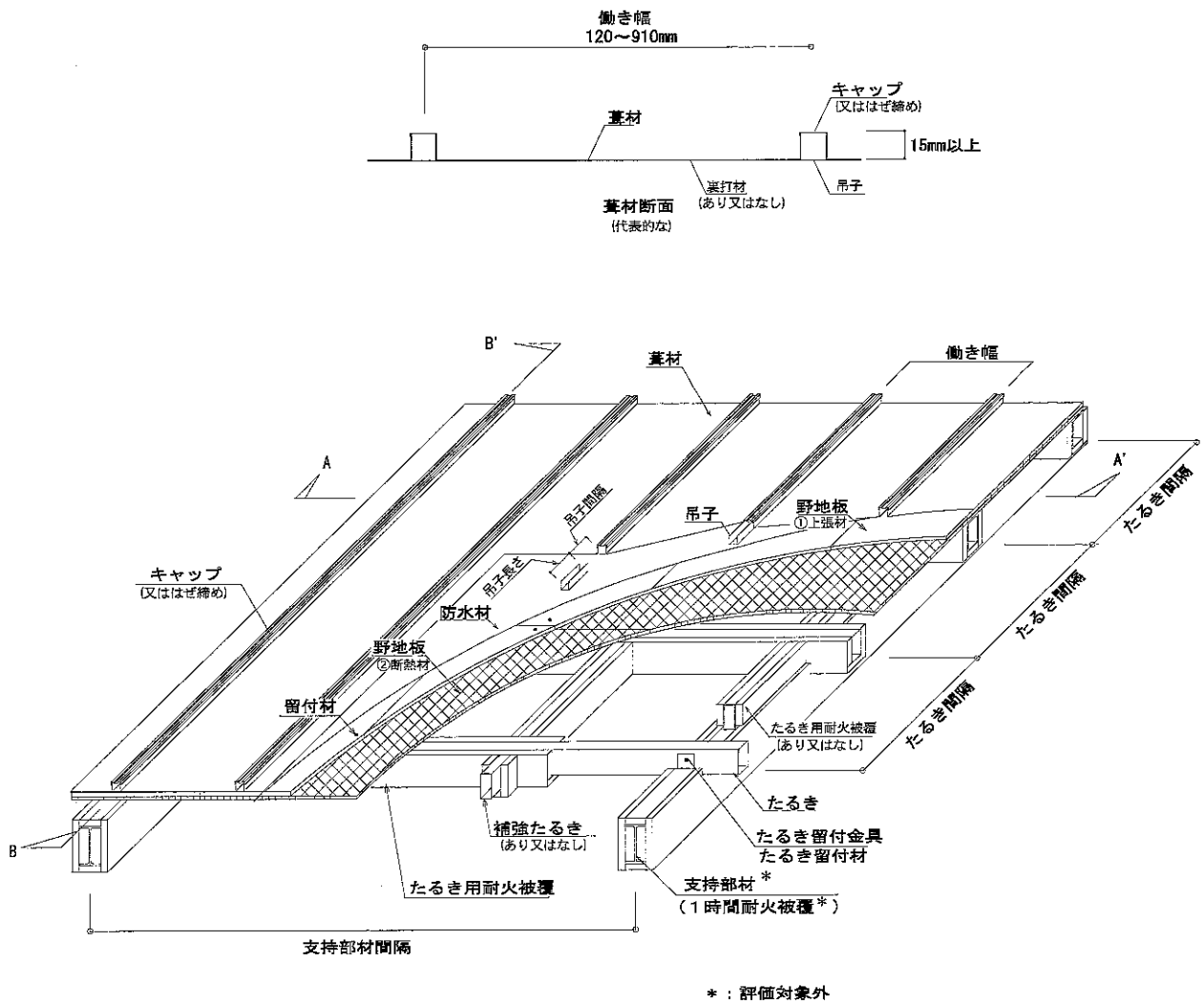
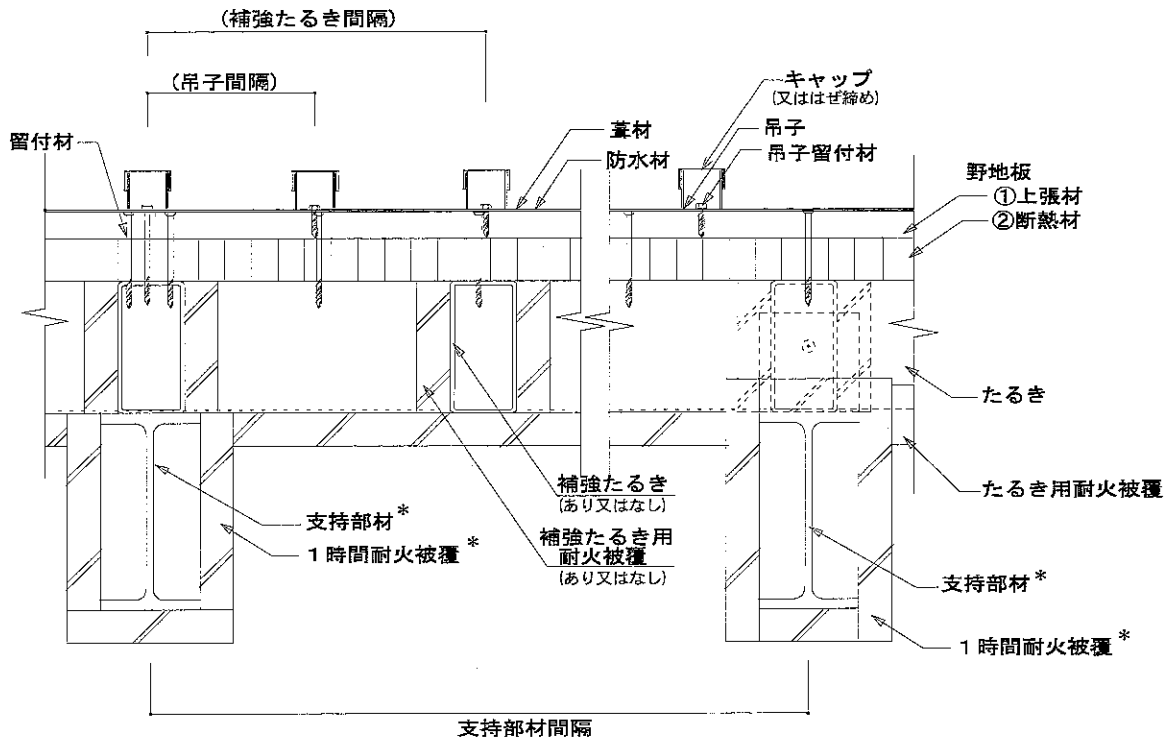
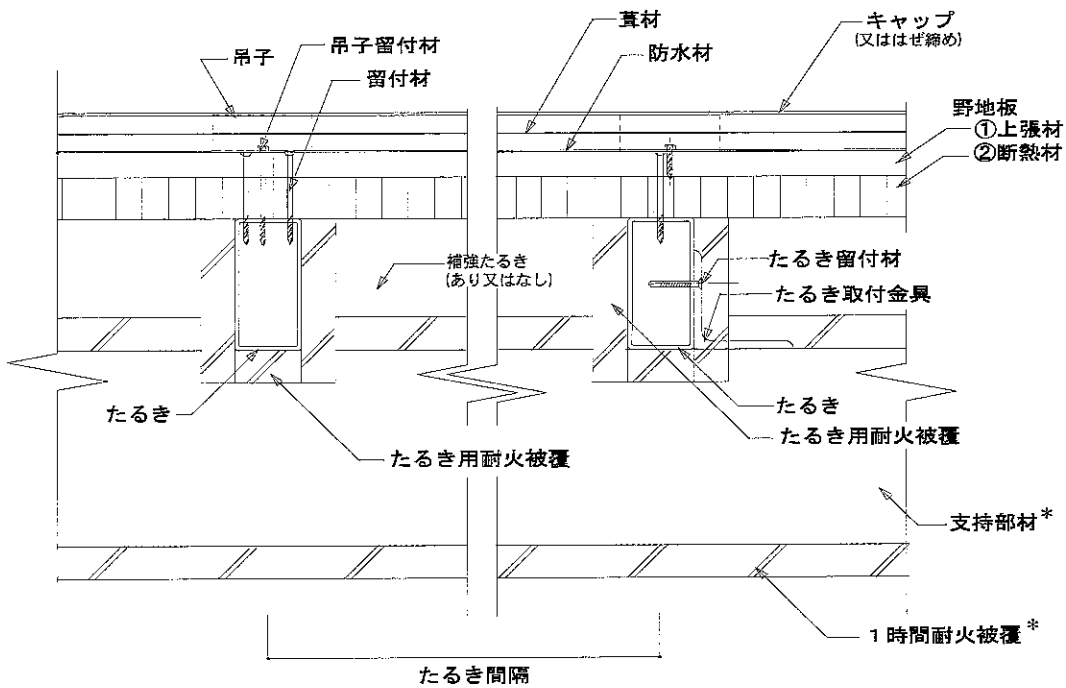


図17 構造説明図 (②瓦棒葺/角形仕様)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図18 構造説明図 (②瓦棒葺/角形仕様)

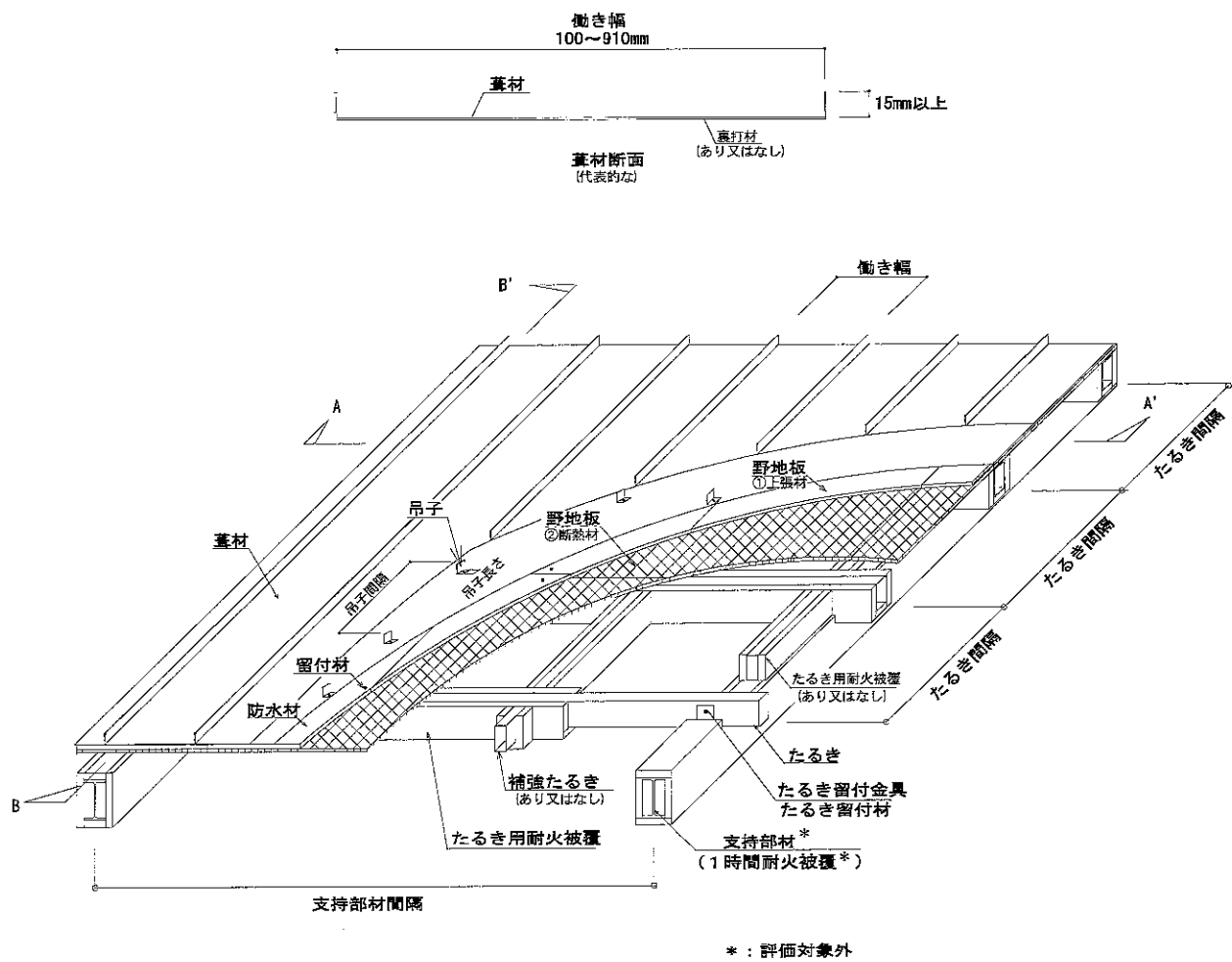
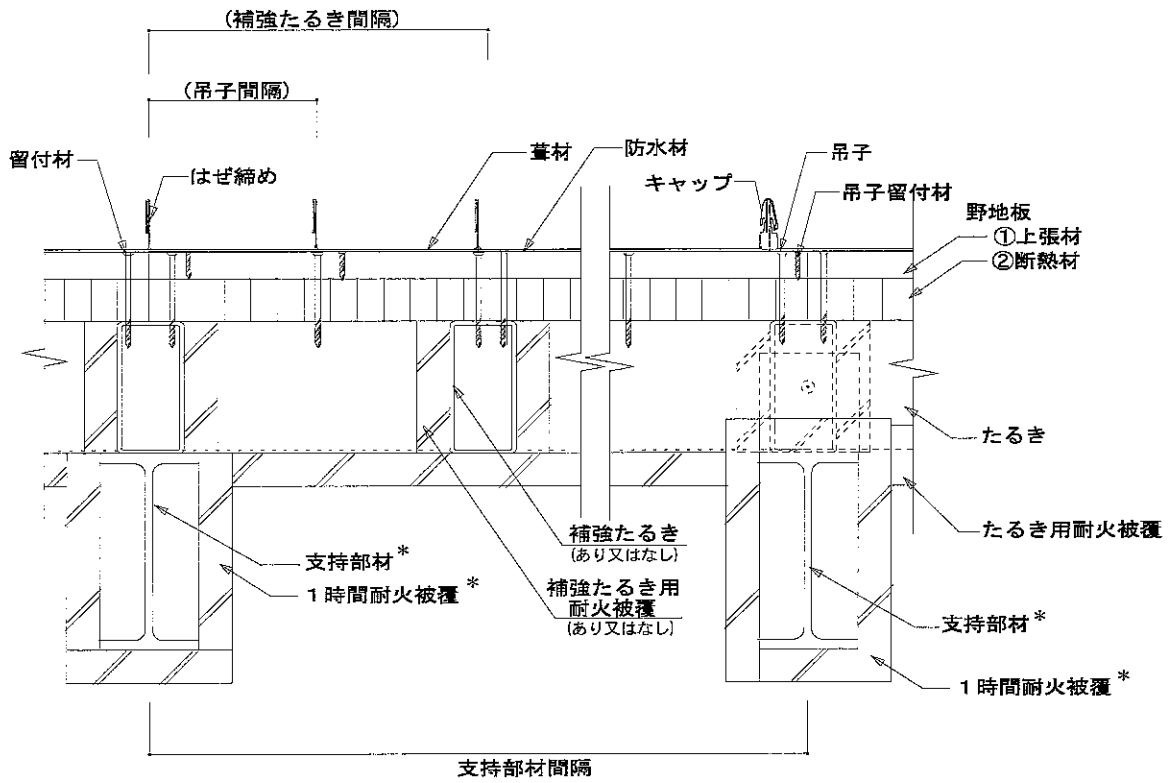
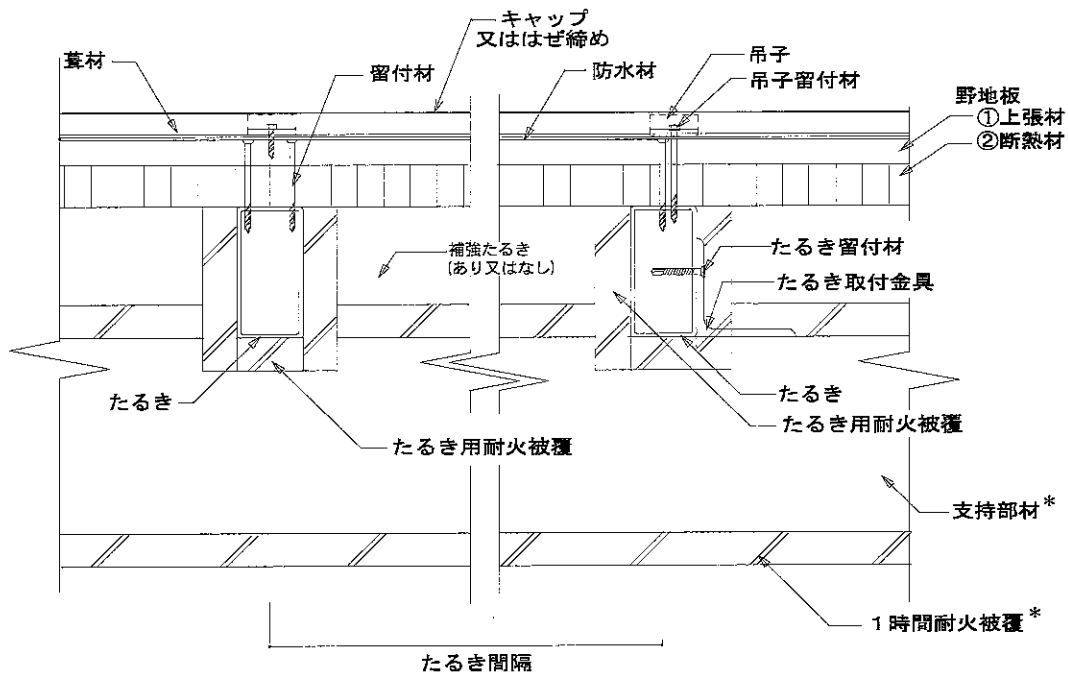


図19 構造説明図 (③立平葺/角形仕様)



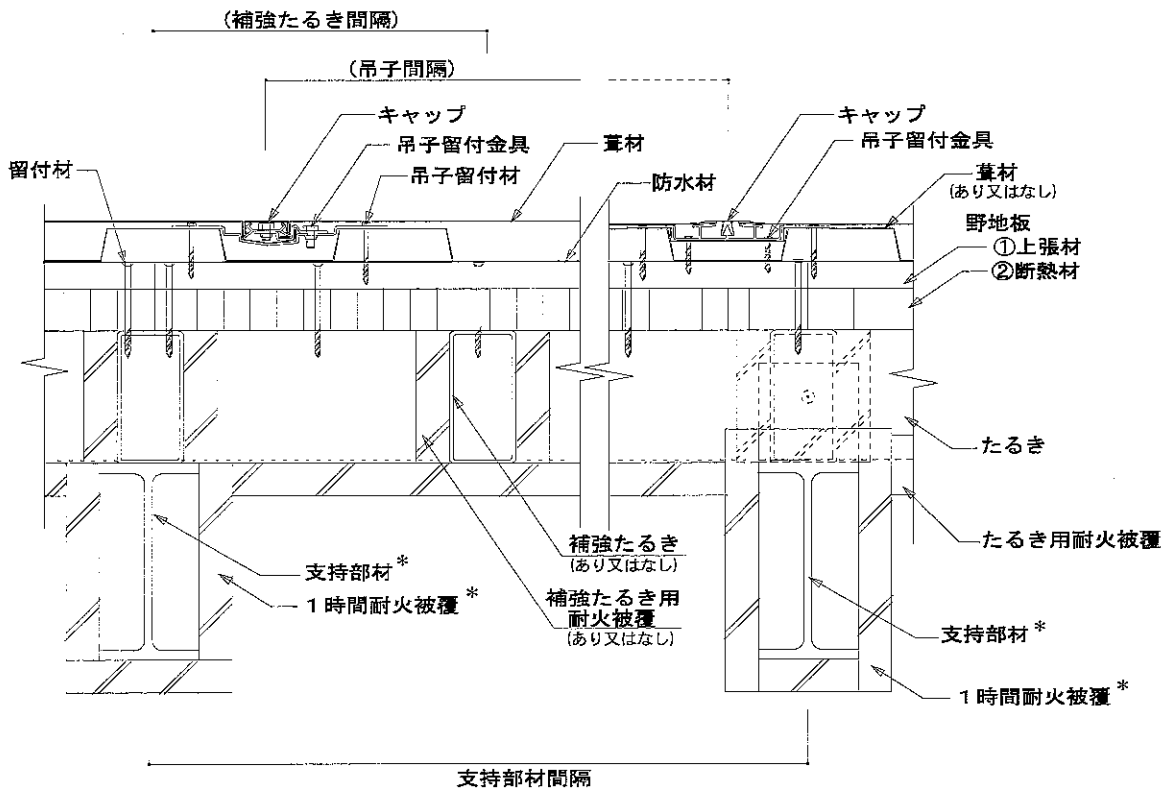
A-A' 断面詳細図



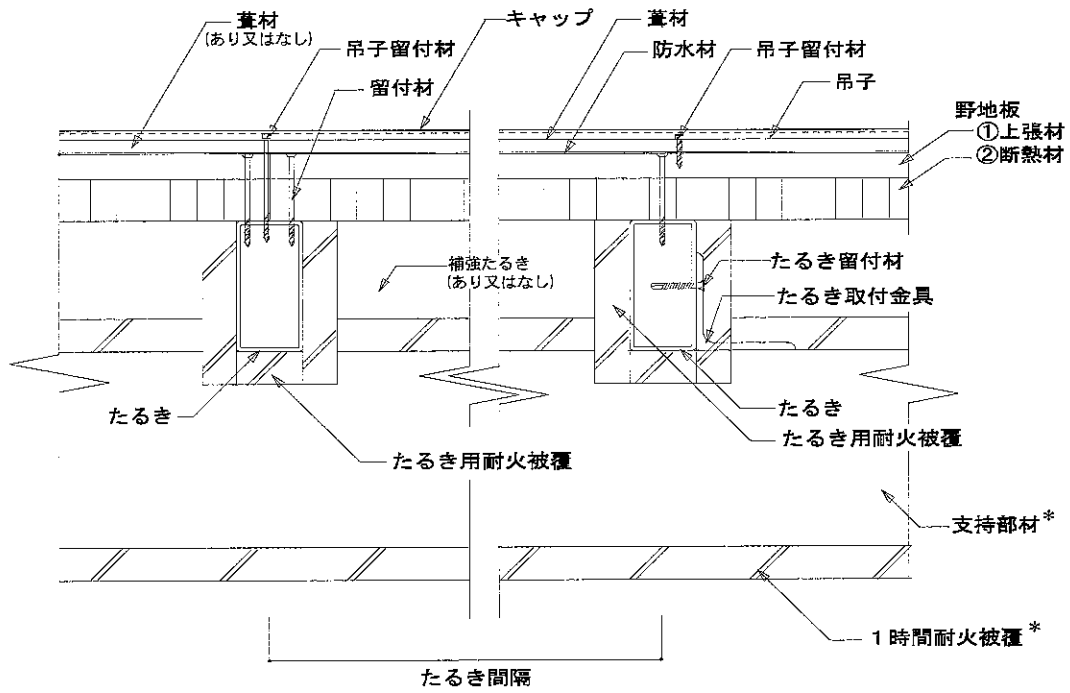
B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図20 構造説明図 (立平葦/角形仕様)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図22 構造説明図 (平滑葺/角形仕様)

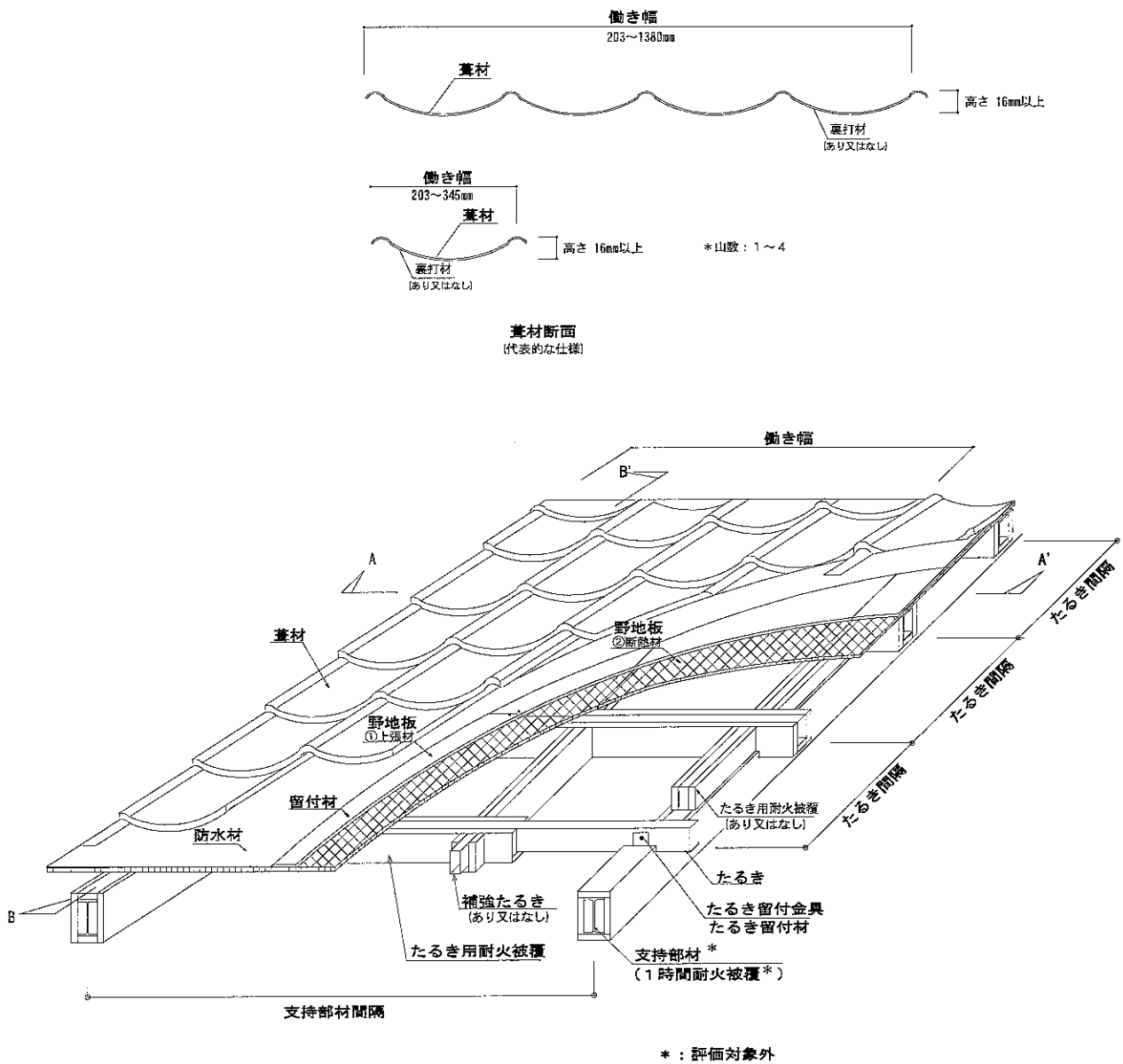
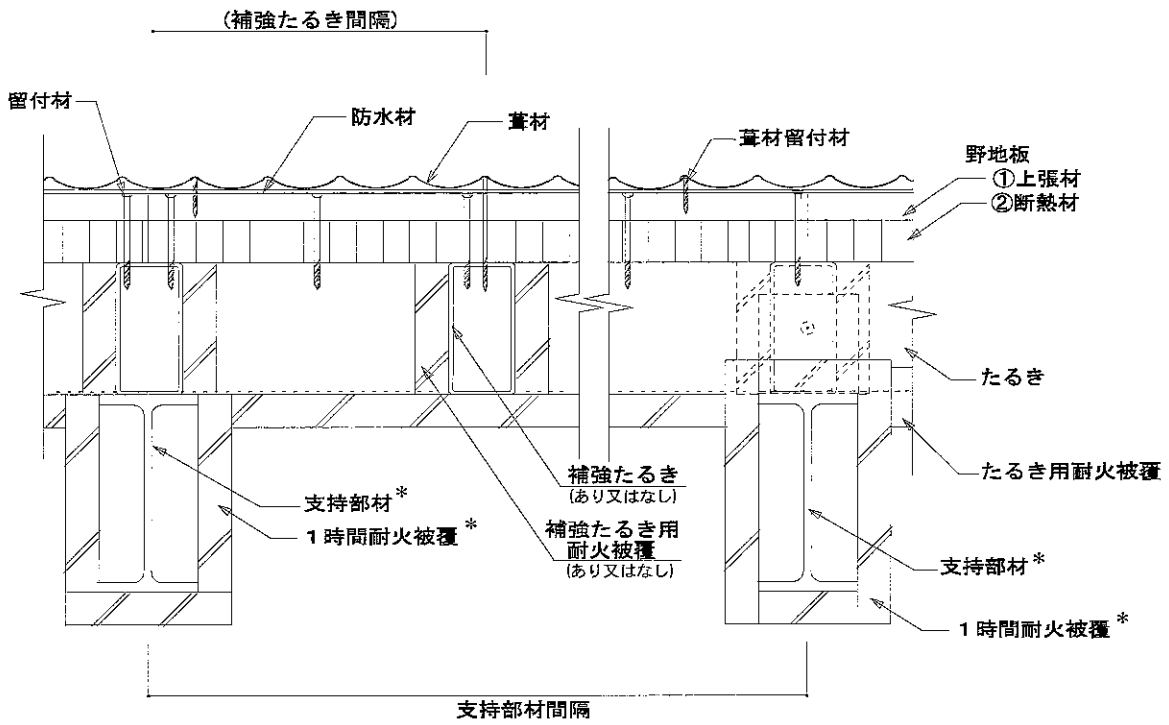
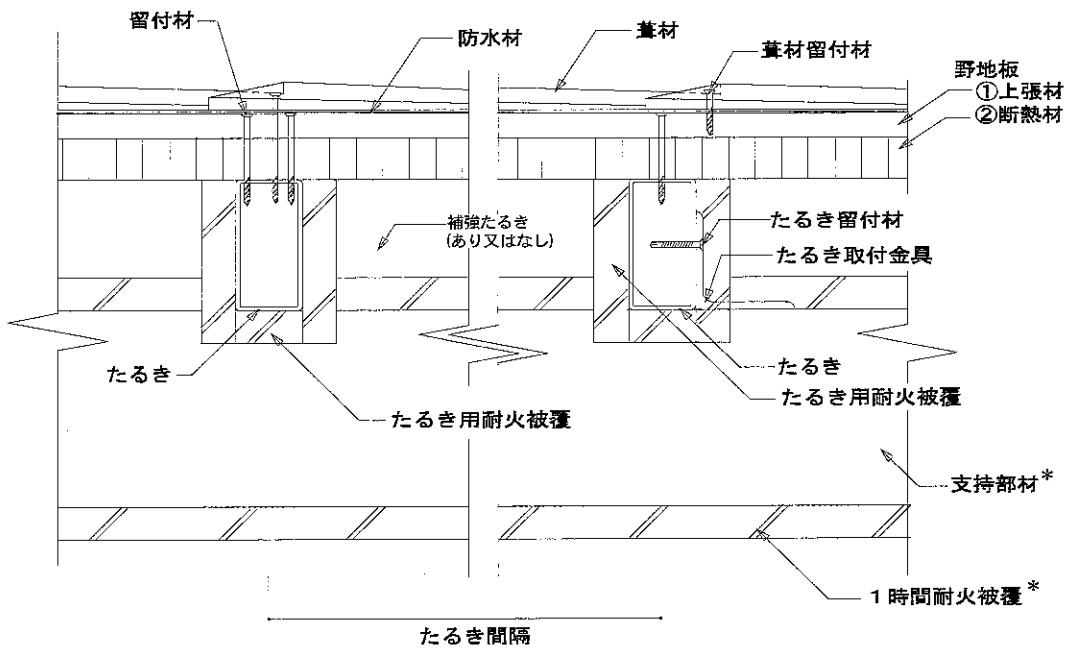


図23 構造説明図 (⑤金属瓦葺/角形仕様)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図24 構造説明図 (金属瓦葺/角形仕様)

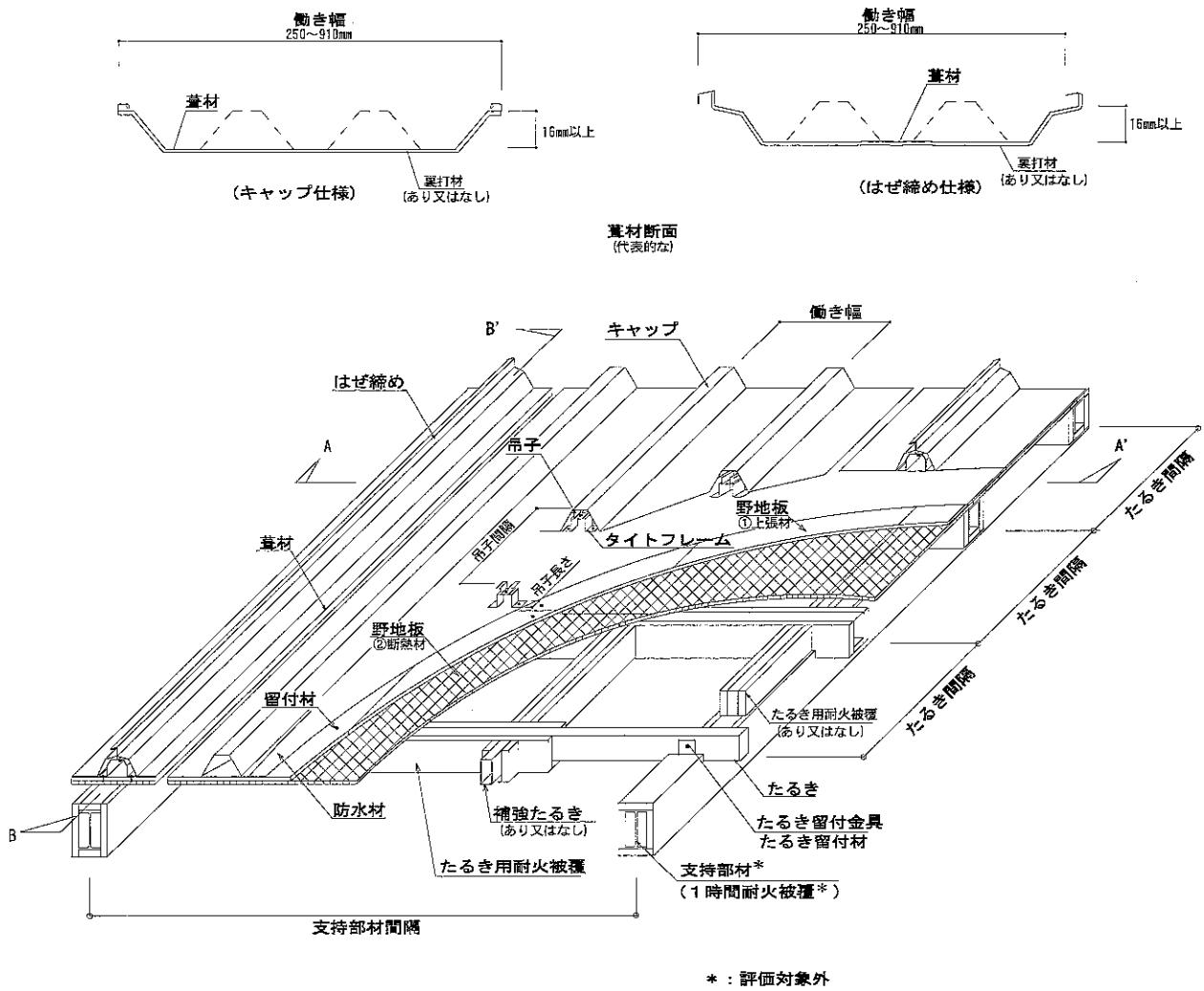
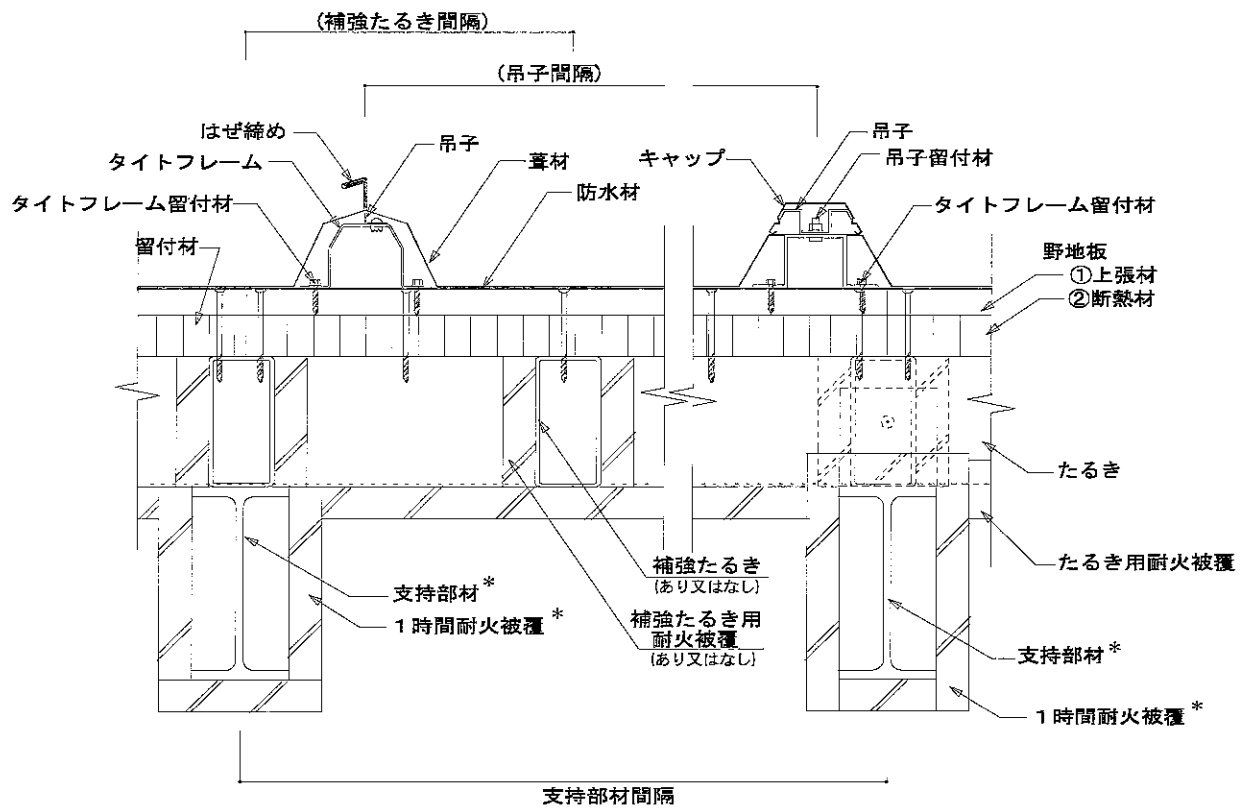
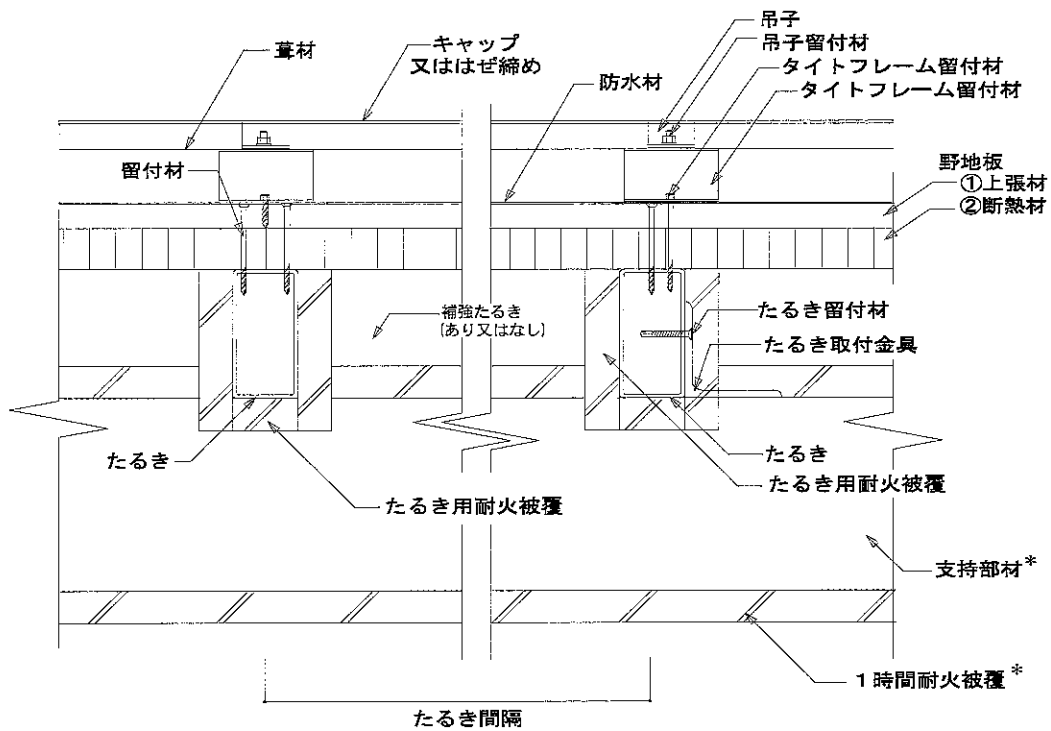


図25 構造説明図 (⑥折板葺/角形仕様)



A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図26 構造説明図 (折板葦/角形仕様)

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

(1) 下地

- 1) 支持部材は「構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法」とし、支持部材には1時間耐火被覆を施す。たるきの形状・寸法及びたるき間隔は「構造計算等により構造安全性が確かめられた形状・寸法及びたるき間隔」とする。
但し、平成12年建設省告示第1399号第4号第三号への規定に該当する場合には、耐火被覆を施さなくてもよい。
- 2) たるき取付金具を、たるき間隔910mm以下になるように、支持部材に電気溶接等で取付ける。なお、補強たるきを用いても良い。
- 3) たるき留付材等を用いて、たるき取付金具に取付ける。

(2) 野地板(複合板)の取付け

- 1) 割付図に従って、野地板を配置する。
- 2) 取付けは留付材(タッピンねじ等)を用いて、野地板端部から25mm以内の位置でたるきに留付ける。その間隔は303mm以内とする。
- 3) 複合板は、あらかじめ工場で木質系セメント板及びフェノールフォーム断熱材(フクビ化学工業(株)製)を接着剤等の張合材を用いて複合板としても良い。
なお、ジョイナーを使用する場合は、複合板の目地部に挿入する。

(3) 防水材の張付け

防水材を、重ね代100mm以上となるように野地板の上に敷き込む。
必要に応じてタッカー(肩幅10mm-足長10mm以上;間隔1000mm以下)で仮留めする。

(4) 屋根葺

金属板葺仕様

- 1) 葺き仕様：①横葺、②瓦棒葺、③立平葺及び④平滑葺きの場合
 - ・吊子は吊子留付材でたるき及び野地板に留付ける。
 - ・葺材は吊子に引っ掛け固着する。
 - ・②瓦棒葺、④平滑葺きはキャップを被せかきして固定する。
 - ・③立平葺の嵌合部はキャップ又は馳締め仕様とする。
- 2) 葺き仕様：⑤金属瓦葺の場合
 - ・葺材用留付材を用いてたるき及び野地板に留付ける。
- 3) 葺き仕様：⑥折板葺の場合
 - ・タイトフレームをタイトフレーム留付材を用いて取り付け、その上に吊子を吊子留付材で取り付ける。
 - ・葺材をタイトフレームと吊子に固定する。
 - ・キャップを被せかきしめ又は馳締めで固定する。